

# ふるさと沼田のよさに気付き、地域を誇れる心をもつ児童・生徒の育成 ～「気付く・かかわる・伝える」学習過程を通して～

## ○研究の概要

本研究は「沼田大好き！ふるさと学習」に基づいて、ふるさと沼田のよさに気付き、地域を誇れる心をもつ児童・生徒の育成を目指したものである。各教科・道徳等で地域教材（ひと・もの・こと）を活用し、「気付く・かかわる・伝える」学習過程を発達段階に応じて工夫する。身近な自然や、人、文化財とかかわる体験を通して学んだり、学習内容を伝えたりすることで、ふるさと沼田のよさを発見・再認識し地域を誇れる心をもつことができると考える。

【キーワード】 地域を誇れる心をもつ児童・生徒 沼田大好き！ふるさと学習  
地域教材 「気付く・かかわる・伝える」

## I 主題設定の理由

教育基本法や、学校教育法では、伝統や文化に関する教育の充実が目標として明記されている。教育現場においては、我が国や郷土の伝統を受け止め、そのよさを理解し、継承・発展させる教育の充実にむけて積極的に取り組んでいくことが求められている。子ども達にとっても自分の生まれ育った「郷土＝ふるさと」は自己を形成する基盤となるものである。

2016年1月から、NHK大河ドラマで「真田丸」が放映された。その結果、沼田公園や関係行事は例年以上の賑わいを見せた。メディアで取り上げられることにより、その歴史的価値や、意味の深さを知ることができ、沼田市外からも認められていると実感できるからこそ、そんな財産をもつふるさと沼田が好きになる。2020年には東京オリンピックも開催され国際的なイベントとして多くの外国人が日本にやってくる事が予想される。国際化を感じられる大きな節目となる時に、ふるさとに自信をもち、地域を誇れる心をもつ児童・生徒を育てていきたい。

沼田市では、教育委員会の教育施策の一つとして、「沼田大好き！ふるさと学習」に取り組み、既に各学校の教育課程の中に位置づけられている。児童・生徒の実態として、地域についてのアンケートの結果や日常の会話から、学校区を中心とした地域をふるさととしてとらえているが、学校区から離れた沼田をふるさととしてとらえ難い傾向にある。本研究では、身近な地域から、ふるさと沼田へと地域的広がりをとらえさせることも念頭に、各地域にある素晴らしい「ひと・もの・こと」を教材とし、「気付く・かかわる・伝える」学習過程を発達段階に応じて工夫していく。その中で、ふるさと沼田のよさを発見したり、再認識したりすることで、郷土を誇りに思える心をはぐくむことができると考え本題材を設定した。

## II 研究のねらい(目標)

各教科や道徳において、ふるさと沼田のよさを発見・再認識し、沼田を誇れる心をもつ児童・生徒を育てるために、「気付く・かかわる・伝える」学習過程を工夫することの有効性を明らかにする。

### Ⅲ 研究の見通し（研究仮説）

各教科や道徳において、地域教材（地域の「ひと・もの・こと」）を活用し、「気付く・かかわる・伝える」学習過程を発達段階に応じて工夫することで、ふるさと沼田のよさを発見・再認識し、沼田を誇れる心をもつ児童・生徒を育てることができるであろう。

### Ⅳ 研究の内容

#### 1 基本的な考え方

- (1) 「ふるさと沼田のよさ」とは、長く受け継がれてきた「伝統」や「文化」のよさ、人から人へと「継承」され「発展」してきたよさ、誇らしい「努力」や「功績」を残した先人がいるよさ、恵まれた自然や、あたたかいふれ合いのある「環境」のよさととらえる。
- (2) 「地域を誇れる心をもつ児童・生徒」とは、学習を通じて、沼田の「ひと・もの・こと」のよさを発見・再認識し沼田への愛着がより深まり、誇りに思える児童・生徒ととらえる。

#### 目指す児童・生徒像

- 低学年…自分と身近な人々や社会とのかかわりに関心をもち、自分の住む地域のよさに気付き、愛着をもてる児童
  - 中学年…住んでいる地区から関連する地域へと視野を広げ、先人の行い・文化財・地域の行事を理解し、地域社会に対する誇りと愛情をもてる児童
  - 高学年…郷土に貢献した先人の努力や功績・文化財・地域行事の価値を理解し、地域社会に対する誇りと愛情をもち、社会に深くかかわろうとする児童
  - 中学生…郷土の地理的、歴史的・文化的特色に対する理解を深め、それらを支えてきた先人に尊敬と感謝の気持ちをもち、誇れる郷土の発展に努めようとする生徒
- (3) 「『気付く・かかわる・伝える』学習過程を発達段階に応じて工夫する」とは、各発達段階における具体的な姿をもとに地域教材を意図的・効果的に取り入れ、資料提示や情報発信等を工夫していくことである。

#### 各発達段階における具体的な姿

- 低学年…(見る・聞く・触れる・作る・探す・育てる)活動を通して気付いたことをもとに観察や質問などでかかわり、言葉や絵・動作などで伝えられる児童
- 中学年…観察・調査、資料に触れたりする活動を通して気付いたことをもとに、さらに追究調査したり、資料を比較したり、見学したりしてかかわり、パンフレット・マップ・新聞・模造紙などで伝えられる児童
- 高学年…観察・調査、資料に触れたりする活動を通して気付いたことをもとに、主体的に計画をたてたり、見学したり、調査したりしてかかわり、新聞・模造紙やポスター、文章(作文・手紙・俳句・川柳・詩・キャッチコピー)で伝えられる児童
- 中学生…観察・調査、資料に触れたりする活動の中で気付いたことをもとに、多面的・多角的な視点をもってかかわり手紙やICTなども活用したりしながら伝えられる生徒

「気付く・かかわる・伝える」学習過程例(生活科・社会科)

	低学年	中学年	高学年	中学生
気付く	○ 地域によさに気付かせるために、地域の「ひと・もの」が自分の生活や学習にどのようにかかわっているか振り返らせる	○ 地域のことに関心をもつため文化財の観察・調査、文献資料を調べさせる ○ 地域の先人の思いがかかわっていることに気付かせるため文化財と人物を関連づけて考えさせる	○ 先人の業績や、文化遺産の価値などに気付かせるために、既習をもとに他地域・過去との共通点・差異点を見つけさせたり、文化遺産などに触れさせたりさせる	○ 地域の特色や伝統・文化について多面的・多角的にとらえられるよつための視点にあたえて資料を示す
かかわる	○ 地域によさをとらえるために地域の人々及び地域の様々な場所、公共物、公共施設を事前に調べたり見学したり、話を聞いたりする	○ 先人の功績や文化財、年中行事の価値に気付かせるために地域教材にかかわる資料を集めさせたり見学をさせたり、講師を招いて話を聞かせたりする	○ 社会の発展に大きな働きをした先人の業績や文化遺産について理解するために写真、文書資料、インターネットを使って調べさせる	○ 地域への愛着を高めるために、資料から地域の課題を見いださせたり、自らの疑問をもとに必要な資料を収集し調べさせる
伝える	○ 地域によさに気づき、児童が地域への意識を深めるために、調べたことを模造紙などにまとめさせる	○ 文化財や年中行事が地域の人に受け継がれてきたことをとらえるために新聞・紙芝居等でまとめさせる ○ 先人の働きによって地域が発展してきたことをとらえるため新聞・紙芝居でまとめ伝えさせる	○ 先人の業績や文化遺産についての理解を深めるために社会の発展と関連させながら模造紙や新聞にまとめ伝える	○ 地域の発展のために多面的・多角的に考察したことを整理し、自分の言葉で表現しまとめさせる ○ 資料を有効に活用するため、ICT機器を積極的に用いて伝えさせる

「気付く・かかわる・伝える」学習過程例(道徳)

	低学年	中学年	高学年	中学生
気付く	○ 人物の関係性に気付かせるために、役割演技をさせる ○ 思いの変化に気付かせるために、場面図を提示する	○ 場面や思いに気付かせるために、文章資料を読み取らせる ○ 価値とのかかわりを自覚させるために、自分自身の生活を振り返らせる	○ 祭りの苦勞に気付かせるために、写真資料を用いる ○ 思いの変化に気付かせるために、大きな矢印を掲示する	○ 支えてきた方の存在に気付かせるため、沼田まつりの歴史の話をしていただく ○ まつりの変化に気付かせるために写真資料を比較させる
かかわる	○ 思考を広げるために他者の意見を聞かせる ○ 他者への理解を促すために、人の気持ちになって考えさせる	○ 互いの思いを知るために、意見を交流させる	○ 地域の伝統や文化について考えさせるために、講師の話聞かせる ○ 講師の話の効果的に活用するために、シナリオ風の学習指導案を活用する	○ 地域の伝統に気付かせするために、沼田まつりを支えてきた方の話やお囃子の演奏を聞かせる
伝える	○ 思考の深まりを図るために、思ったことを言葉で伝えさせる ○ 思いを表現させるために、絵を描かせる	○ 学習内容を振り返らせるために、感想を書かせる	○ 思考を広げるために、それぞれの意見を伝え合わせる ○ 伝統を継承する態度を養うために、手紙を書かせる	○ 思考を広げたり、ふかめたりするために授業の感想を伝え合う ○ 伝統を継承し、発展させる気持ちをもたせるために、授業を振り返り、学習したことを整理して手紙を書かせる

(4) 沼田市教育委員会の示す『沼田大好き！ふるさと学習』の実践例

- ①直接的指導 「道德の時間」において、地域のまつりを支えてきた方にインタビューする活動などを通して、直接的に「郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心情」を高める。
- ②間接的指導 社会科において、「教科の目標・指導内容」を身につけさせる指導の中で、地域の先人の功績を調べる学習を通じて、地域に対する興味が高まり、間接的に「沼田を愛する心」を育成する。
- ③日常的指導 「授業以外の時間」において、下校時に沼田の歌を流したり、生方たつゑ・小野忠孝作詞の校歌を歌う、三大文学賞への参加などで、沼田への愛着や興味・関心を高める。

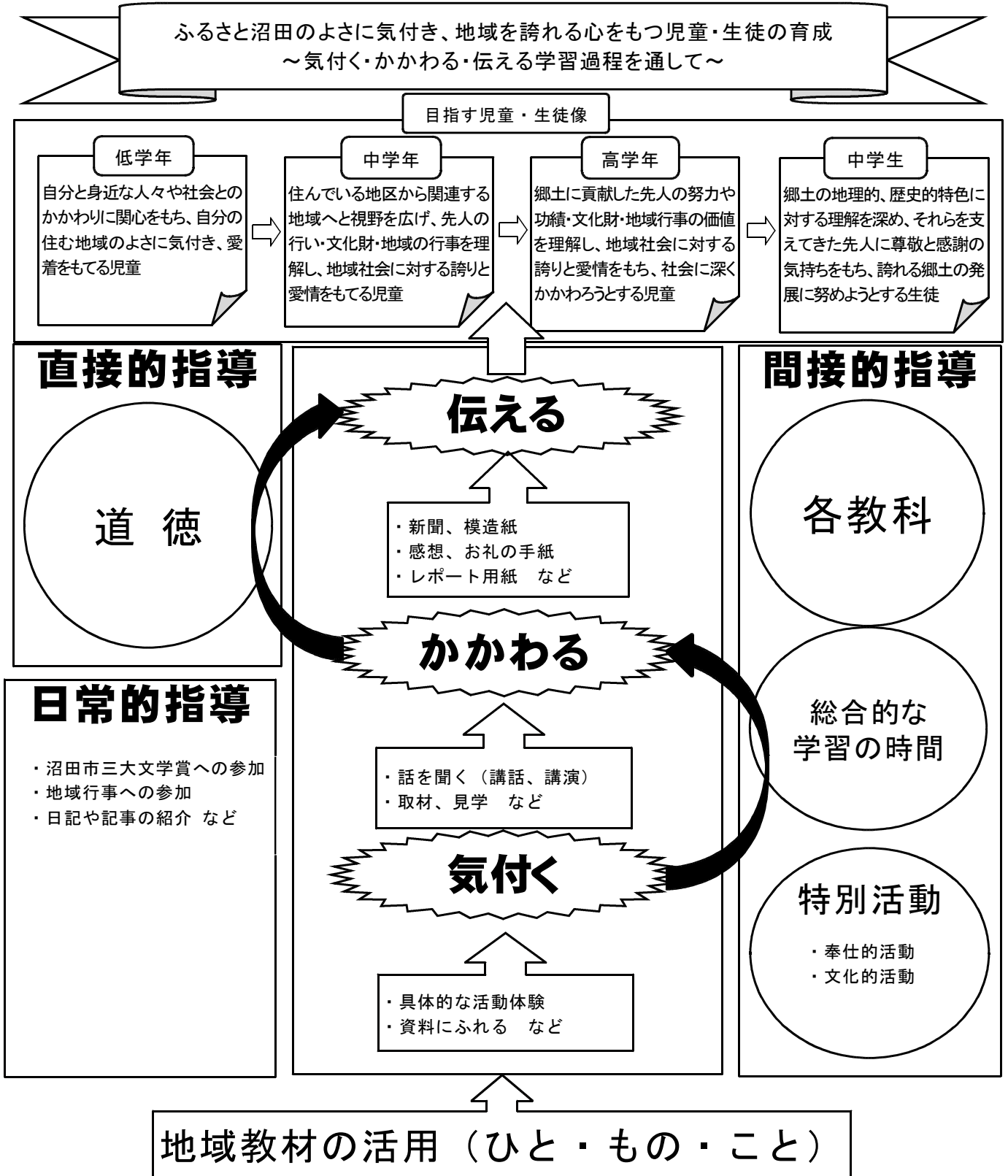
本研究では、『沼田大好き！ふるさと学習』の上記の内容をふまえ、3つの指導を充実させていく。

(5) 「地域教材」とは郷土に存在する（ひと・もの・こと）であり、教育的価値が高く、ねらいに沿って教材化が可能なものをさす。

本研究にかかわり沼田市の地域教材となりうる代表例

ひと	・久米民之助・星野あい・細谷浅松・林照壽(柳波)・生方たつゑ・米倉大謙・小野忠孝[沼田市名誉市民] ・宮川ひろ・岡村八弥
もの	・生方家住宅・旧土岐邸洋館・榛名神社・須賀神社・八幡宮・三光院・天桂寺 ・正覚寺・沼田公園・鐘楼・薄根の大桑・一本松・城堀川(川場用水・白沢用水) ・用水管理のための宿割(高平宿)・赤城山・玉原高原・吹割の滝・老神温泉・ ・南郷温泉・片品川・薄根川・利根川・うつぶしの森・河岸段丘
こと	・沼田まつり・ふるさと祭り(各地域の)・どんど焼き・えびす講・沼須人形芝居

2 研究構想図



〈児童・生徒の実態〉

- ・地域のことは好きだが、主体的にかかわりたいという気持ちは少ない。
- ・自然を大切にしたいという思いがある一方で、それ以外のよさに気付くことができていない。
- ・生活圏の文化財に対しての興味・関心が高い。

### 3 検証計画

#### (1) 研究の実践計画

4・5月	児童・生徒の意識把握（実態把握）－課題の明確化 先行事例の研究 研究主題・研究内容の検討・実態調査
6月	主題検討会（6月14日）－研究の方向確認・修正 文献研究 地域素材収集・フィールドワーク
7月	実践計画検討
8月	第一次検討会準備 地域素材収集
9月	第一次検討会（9月13日） 地域素材の教材化（資料・ワークシート等） 実践準備、指導案検討
10月・11月	指導案検討・実践 白沢小学校（10月4日） 沼田中学校（11月1日） 多那小学校（11月8日）
12月	事後調査 成果と課題について検討
1月	第二次検討会準備 第二次検討会（1月24日）
2月	紀要原稿作成・提出 修了式・成果発表会（2月21日）

#### (2) 検証計画

検証の観点	検証の方法
各教科や道徳などで、身近な地域教材をねらいに沿って活用し、「気付く・かかわる・伝える」学習過程を発達段階に応じて工夫する授業づくりをしたことは、ふるさと沼田のよさを発見・再認識し、地域を誇れる心をもつ児童・生徒を育てていくために有効であったか。	・アンケート・生活日記 ・ノート・ワークシート・新聞 ・観察・作文・手紙

## V 研究の展開

### 実践事例1 (沼田中学校2年4組 春日教諭)

#### 1 ねらい

沼田まつりの歴史や、支えてきた方の思いにふれることで、それらの方へ感謝の気持ちや、沼田で育まれてきた伝統や文化の価値に気づき、郷土を愛する心情を養う。

#### 2 資料(講師) 〈価値項目 4-(8) 郷土愛〉

##### ①講師について

小池 真一郎(こいけ しんいちろう)さん

沼田祇園囃子保存会事務局。長年にわたり、沼田まつりを支えてきた方である。祇園囃子保存会は平成24年にNHKの「第12回地域伝統芸能まつり」に出演。

##### ②本時におけるお話の内容

沼田まつりの歴史、沼田まつりに対する思い、支えてきた経験などを話していただく。生徒が、沼田まつりを支えてきた方々の存在に気づき、郷土を誇りに思い、守っていこうという心情が生まれることを期待する。

#### 3 ねらいとする価値について

本題材は学習指導要領の内容項目4「主として集団や社会との関わりに関すること」の(8)「地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める」を中心価値としたものである。本校の生徒たちにとって沼田まつりとは、大変身近で誇らしいものである。しかしながら、それは、神輿や山車の華やかさや、盛り上がりの雰囲気によるところが大きい。本授業では、沼田まつりの長い歴史やそれらを支えてきた先人の思いにふれることにより、郷土を誇りに感じ、郷土の発展のために尽くせる心情をもてることを目指す。

#### 4 生徒の実態

本学級は男子14名、女子18名、計32名で構成されている。本研究をするに当たり実施した事前の調査の結果は以下の通りである。〈アンケート実施日 5月10日( )内は人数〉

質問1 自分の地域について調べたいと思うことはありますか。

「はい」(13) 「いいえ」(19)

「はい」…歴史(5)新しい発見(3)沼田城(1)城下町(1)人口密度(1)

「いいえ」…興味が無い(3)色々知っている(3)調べるほどのものがない(2)知りたいことは無い(1)

沼田より他地域を調べたい(1)いずれ離れるから(1)

自分の地域を調べたいという気持ちは、「いいえ」の方が「はい」を上回るが、理由として、既に知っているということがあげられている。今までの生活を通して、地域にふれ、地域についての学習経験が既にあるということが読み取れる。

質問2 住む地域のよさを説明してください。(複数回答有)

自然が豊か(13)津波がこない(5)住むのに不便を感じない(5)静か(4)歴史(4)水がおいしい(4)

災害が少ない(4)あいさつのよさ(3)空気がきれい(3)観光地(1)周囲が山(1)地形(1)地域の人があたたかい(1)

地域の方と仲がいい(1)地域行事が多い(1)沼田まつり(1)

質問3 住む地域について大切にしたいと思う場所やものを教えてください。(複数回答有)

沼田公園(10)自然環境(10)公園(4)沼田城址(3)山(2)サッカー場(1)挨拶(1)河岸段丘(1)天狗みこし(1)

沼田まつり(1)焼きまんじゅう(1)学校(1)歴史に関するもの(1)

地域のよさとして文化的なものや、自然環境的なものだけでなく、人とのふれあいから得られることをあげている生徒もいる。大切にしたいと思う場所として、沼田公園をあげる生徒が多かった。沼田公園は隣接学区にあるものだが、生徒にとっては住んでいる地域の一つとしてとらえており、生徒にとって住む地域は徒歩圏内の沼田地域であることがわかる。以上のことから生徒の住む地域が舞台となり、よさや大切なものとして感じている「沼田まつり」を題材として、学習に取り組もうと考えた。

本題材を学習するにあたり実施した事前調査の結果は、以下の通りである。

(9月2日実施 男子14名、女子18名、計32名)

ア「沼田まつり」についてもっているイメージは(複数回答あり)

楽しい(10)天狗みこし(8)にぎやか(7)人がたくさん(3)屋台(2)さわがしい(2)山車・神輿(2)  
沼田最大の行事(1)伝統・歴史(1)沼田最大のイベント(1)

イ「沼田まつり」に参加したことはありますか(見に行ったことも含め)

ある(32) ない(0)

ウ どのようなかたちで参加しましたか(複数回答あり)

神輿や山車を見に行った(25)神輿を担いだ(7)お囃子をした(6)山車を引いた(3)食べ歩き(1)

エ「沼田まつり」の誇れること(複数回答あり)

天狗みこし(12)山車・おみこし(5)たくさんの人が集まる(2)歴史がある(1)毎年同じ日に行われる(1)お囃子(1)  
優しさを感じる(1)みんなで楽しめる(1)おまつりに向けての団結力(1)ハワイに天狗みこしが行った(1)屋台(1)  
アより、多くの生徒は「沼田まつり」に対してよいイメージをもっていることがうかがえる。イ・ウから学級の半数近くは、神輿やお囃子などで参加した経験があった。見る側での参加も含めると全ての生徒が沼田まつりに関わっていることが分かった。しかしエより、誇れることの多くは見たり、聞いたりしてわかることが多く、内面的なことを誇れる生徒は関わり数から考えると少なかった。以上のことから、本題材を取り上げ、郷土を誇りに思える心情を養うことに意義があると考えた。

## 5 道徳的価値を深めるための工夫(発達段階に応じた学習過程の工夫)

「気付く」過程

- ポスターなどを提示し、見た目の華やかさをとらえさせるとともに、そこに(まつりを支える)人が存在することに気付かせたい。(講師の小池さんに、沼田まつりの歴史・由来などについてもお話いただく)
- 小池さんの中学生の頃の思いを考えることで、講師の気持ちの変化がよりとらえやすくなるようにする。
- 小池さんの中学生の頃から現在の思いの変化に気づけるよう矢印で時系列を結ぶ。

「かかわる」過程

- 長年沼田まつりを支えてこられた方をゲストティーチャーとして招き沼田まつりの見た目からはとらえづらい人々の思いにふれ、沼田まつりとそれを支える人の存在に気付かせたい。
- シナリオ風に授業の流れをまとめ、それを元にゲストティーチャーと指導者が打ち合わせを行い授業のねらいや、地域の方の思いについて共通理解をはかる。

「伝える」過程

- 意見交流の場面を設定し沼田まつりに対する生徒のとらえ方の変化を共有することで、思いの深まりをねらう。
- 行事を支えて来た方々の思いに気付きどのように引き継いでいきたいか想像し、そのために日常できることについて考える。

## 6 題材について

事前にとったアンケートより、ほとんどの生徒が沼田の誇りとして、沼田公園や沼田まつりを上げた。沼田まつりについて全ての生徒がいずれかの形で関わり、よいイメージをもっている。しかし、多くの方の支えや、思いが引き継がれて沼田まつりが成り立っていることに目がむいている生徒は少ない。そこで、「気付く」「かかわる」「伝える」学習過程を通して、より深く沼田まつりを知り、沼田を誇りに思える生徒が増えることを目指す。



## 7 本時の学習

### 1 ねらい

沼田まつりの歴史や、支えてきた方の思いにふれることで、それらの方への感謝の気持ちや、沼田で育まれてきた伝統や文化の価値に気付き、郷土を誇りに思える心情を養う。

### 2 準備 教師：視聴覚資料、学習プリント

生徒：道徳ファイル、筆記用具

### 3 展開

単	学習活動	予想される生徒の反応	教師の支援及び留意点
	教室に沼田まつりのお囃子を流し雰囲気を作る。		
導入 7分	<p>○講師について知る。 「沼田祇園囃子保存会小池さん」について紹介説明。</p> <p>《気付く場面》</p> <p>○沼田まつりの歴史を知る。(小池さん) (沼田まつりの起源等歴史)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統のあるものだ。</li> <li>・子どもから、大人まで多くの年齢の人が関わり支えてきた。</li> </ul>	
展開 36分	<p>《関わる場面》</p> <p>○小池さんが中学生の頃どのような思いで沼田まつりに関わっていたか考え、発表する。 ○小池さんの中学生の頃のお話を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>発問 1</b> 小池さんの中学生の頃と現在の間にどのような思いの変化があったでしょう</p> </div> <p>○今の小池さんの思いについて考える。 ○小池さんの思いを聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>発問 2</b> 自分たちは、今後沼田まつりをどのように受け継ぎ、関わっていきたいと考えますか。</p> </div> <p>○自分と沼田まつりとの今後の関わりかたについて考える。</p> <p>《伝える場面》</p> <p>○意見交流(隣同士)後、数名が発表する。 ○小池さんから生徒の話聞いて沼田まつりを伝えていくとこと(郷土を守るために今できること)について話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい。</li> <li>・お囃子を成功させたい。</li> <li>・故郷を離れても、「沼田」に帰ってくれば沼田まつりがあるという気持ちをもってもらいたいから関わっている。</li> <li>・形のないものだからこそ、しっかりと守りつなげていきたい。</li> <li>・今よりも新しいものを取り入れて発展させたい。</li> <li>・今まで通り、受け継がれてきたものを続けていきたい。</li> <li>・沼田を離れてしまうかもしれないが、沼田まつりには戻ってきたい。今後も残っていてほしい。</li> </ul>	<p>◇ワークシートにメモ欄を作り小池さんのお話をふりかえられるようにする。</p> <p>◇小池さんの中学生時代の思いを知ることで小池さんの思いを身近にとらえられるようにする。</p> <p>◇お囃子や神輿に関わる以外にも、どのような気持ちで見に行くかなど多様な関わりかたがあることを助言する。</p>
終末 7分	<p>○感想をまとめる。 数名が発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沼田まつりをより身近に感じ守っていききたいという気持ちが強くなった。</li> <li>・伝統を受け次ぐ方々の存在を知り、自分も沼田まつりをより大切に行きたいという気持ちが強くなった。</li> </ul>	

## 4 評価

沼田まつりの歴史や、支えてきた方の思いにふれることで、支えてこられた方への感謝の気持ちや、沼田で育まれてきた伝統や文化の価値に気付き、郷土を愛する心情が養われたか。

8 板書計画

← 思いの変化

今の小池さんの思い(予想)

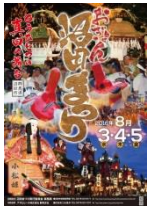
- ・ 伝統を後世に伝えるため。
- ・ まつり囃子が好きだから。
- ・ 故郷を離れても、「沼田」に帰ってくればおまつりが待っている。

今後どのような気持ちで沼田まつりと関わっていききたいか。

中学生の頃の小池さん

沼田まつりに対しての思い

- ・ 楽しい。
- ・ お囃子を成功させたい。



小池さんから学ぶ

9 ワークシート

沼田まつり保存会事務局

小池さんのお話(お父さん)「沼田まつり」について

沼田まつり保存会事務局

沼田まつり保存会事務局

小池さんのお話(お父さん)「沼田まつり」について

沼田まつり保存会事務局

二 今後の沼田まつりについて聞きたいことを尋ねよう。

**小池 真一郎さん。**  
沼田まつり保存会事務局、沼田まつり保存会、長年たつりまつりを支えてこられた方。  
(沼田まつり保存会事務局は市長の愛称「沼田まつり保存会」の愛称で、沼田まつり保存会事務局で活動したり、NHKに出演したりと沼田まつりを国内外に伝える活動もしている。)



沼田まつり保存会事務局

小池さんのお話(お父さん)「沼田まつり」について

沼田まつり保存会事務局

一 小池さんのお話(お父さん)「沼田まつり」について聞きたいことを尋ねよう。

二 現在の小池さん(お父さん)の思い(お父さん)「沼田まつり」について聞きたいことを尋ねよう。

[図1 本時で使用したワークシート(両面)]

## 10 実践のまとめ

(1) 授業の実際 (T: 教師 S: 生徒 GT: 講師・小池さん)

### 導入 「気付く」

T 「今日は、多くの人が沼田の大切なものの一つとして思っている沼田まつりについて学習します。

今日は沼田まつりに長年関わっていらっしゃる方で、沼田祇園囃子保存会連合会の小池さんにお越しいただきました。～講師の紹介 略～

T 「沼田まつりの歴史やどのように伝わってきたのかということについてお話していただきます。」

GT 「大変古くから伝わる祭りで、100年以上前の写真資料も残っている。祇園祭と言われ長い伝統と歴史をもつお祭りである。約50年前に「沼田まつり」という名前に変わって現在の形になった。」



図2 歴史について知る  
（「気付く」）

小池さんに用意していただいた過去の沼田まつりの写真資料をもとに、歴史について話をしていただいた。生徒は初めて見る写真に興味深く見入り、長く受け継がれていることがわかった。

### 展開① 「かかわる」

T 「そんな長い歴史と伝統のある沼田まつりに小池さんは子どもの頃から関わってきました。そこでみなさんと同じ中学生位の頃はどのような思いで沼田まつりに関わってきたのか考えてみましょう」

S 「わくわくしていた」「毎年楽しみだった」「特別な一日」

GT 「みなさんが想像したように、わくわくした気持ちでいました。」

T 「中学校時代の小池さんはみなさんが想像したように、みなさんが沼田まつりに参加する時と同じような気持ちだったのですね。でも、大人になるにつれて小池さんはどのような気持ちで沼田まつりを支えるようになったと思いますか考えてみましょう」

S 「長年続いてきたまつりの楽しさを色々な人に伝えたい」「伝統を受け継いでいきたい」「無くならないように守っていきたい」

より身近に沼田まつりのことをとらえさせることをねらい、小池さんの中学校時代の思いを話していただいた。生徒は今の自分たちと大きく変わらないことがわかり、今の小池さんの沼田まつりに対する思いについてもよく考えている様子だった。



図3 時系列を示す矢印



図4 小池さんの思いを聞く  
（講師と「かかわる」）

### 展開② 「かかわる」

T 「小池さんの思いをうけて、みなさんは今後どのように沼田まつりと関わっていきたいと考えますか。」

S 「長い伝統があることを知ったので、今後は沼田まつりを守っていききたい」

S 「楽しむだけだった沼田まつりを今後は引き継ぐという気持ちをもっていききたい」

T 「最後に実際に小池さんにお囃子の笛を吹いていただきたいと思います。お願いします」

沼田を誇りに思える気持ちの深まりをねらい、実際に沼田まつりで吹かれているお囃子の笛を吹いていただいた。前半に長く受け継がれてきたことも学習しているので大変興味深く演奏に聞き入る生徒の様子がみられた。



図5 笛を吹く小池さん  
(文化と「かかわる」)



図6 授業後の生徒  
(笛と「かかわる」)

**まとめ** 「伝える」

- T 「今日の授業を振り返って感想をまとめましょう」  
 S 「小池さんのような私たちの先輩が引き継いできてくださった、すてきなおまつりを大事にしていきたいと思いました。そしてすごく誇りに思いました。」  
 「お囃子をしていたことがあったので、機会があればもう一度してみたい。自分達が後継者となっておまつりを盛りあげていきたい。」  
 「長い歴史があると知った。来年からはもっと山車やお囃子に注目したい」



図7 思いを（「伝える」）生徒

知っていることも多いと思っていた沼田まつりに対して自分と違った感想や、今までとは違う思いが芽生えている様子をお互いに共有することで、思いの広がりや、深まりを感じ、お互いによさを再認識している様子があった。

沼田祭りは百年以上も続くところも  
 伝統あるお祭りだと思いました。  
 そんなに長くやっているなんて正直  
 ところもびっくりしました。小池さんのよう  
 な私たちの先輩が引き継いできて  
 くれたすてきなお祭りを大事にしてい  
 かないとなくなってしまいました。そして、  
 すごく誇りに思いました。たくさんの人  
 に知ってもらいたいです。

おはやしをしていたときがあったので、機  
 会があればもう一度してみたいと思っ  
 た。自分たちが後継者となって祭りを盛  
 り上げていきたいです。

今までにはこんなに歴史のあるお祭り  
 だとは思っていませんでした。来年からは  
 もっと山車やおはやしに注目して祭  
 を楽しみたいと思いました。

生徒の感想

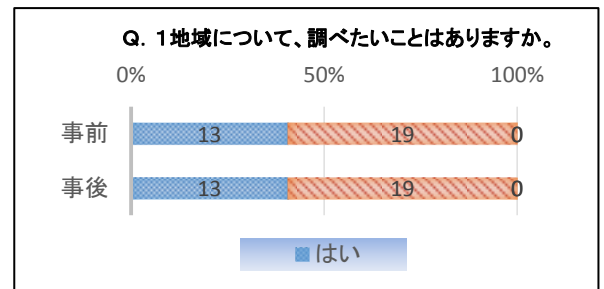
(2) 生徒の変容(アンケート対象生徒：男子14名・女子18名)本研究をするに当たり実施した事後の調査の結果は以下の通りである。(アンケート実施日 11月15日( )内は人数)

**質問1 地域について調べたいと思うことはありますか。**

「はい」 (13) 「いいえ」 (19)

「はい」…歴史(7)真田丸(1)河岸段丘(1)商店(1)昔の様子(1)  
さかんなもの(1)メディアで取り上げられたこと(1)

「いいえ」…興味がない(10)色々知っている(5)何もないから(2)  
地域について調べたいと思う人数に大きな変化は見られなかったが、理由を見ると事前アンケートより歴史とあげる生徒が増えるなど「沼田まつり」をはじめとして、より深く知りたいと挙げる生徒がいた。



**質問2 住む地域のよさを説明してください。(複数回答有)**

自然が豊か(25)人が優しい(5)災害が少ない(4)安全(2)歴史(2)水(2)津波が来ない(2)河岸段丘(2)  
沼田まつり(2)りんご(1)地盤が強い(1)真田丸(1)のどかさ(1)地形(1)台風が少ない(1)町割り(1)沼田公園(1)

事前アンケートに比べ、具体的な例をあげたり、一人の生徒の回答数が増えたりと知識や地域の特色をとらえる視点が増えた様子がうかがえる。

**質問3 住む地域について大切にしたいと思う場所やものを教えてください。(複数回答有)**

沼田公園(13)沼田まつり(10)河岸段丘(6)自然(6)木(3)沼田城址(3)山(2)歴史(1)近所づきあい(1)心遣い(1)神社(1)みそまんじゅう(1)

事前アンケートに比べ、沼田公園や沼田まつりを挙げる生徒が増えた。学区を少し離れた沼田公園を身近にとらえる生徒が増えた。生徒の地域のとらえ方の広がりが見える。沼田まつりを大切にしたいと思う生徒が大幅に増えたのは、本時の振り返りであったような沼田まつりについてそのよさを再認識し、大切にしたい、残したいと思う生徒が増えたということが考えられる。

**(3) 成果と課題**

**成果**

①地域教材の活用 ※地域教材＝(ひと・もの・こと)より

- 生徒にとって非常に身近な行事である「沼田まつり」を題材として取り上げたことは、生徒の興味関心を高めるうえでも、地域の行事を自分たちの行事であるにとらえるためにもよかった。また、大正時代の沼田まつりの様子や山車の写真などの資料から興味関心を高めることができた。
- 実際に地域で活躍している小池さんから話を聞いたことは、実感をもたせて考えを深めることができた。将来、地域貢献のあるべき姿をイメージしたりするためにも非常によかった。
- 全ての生徒が関わったことのある「沼田まつり」について、支えている方の話を聞いたこと、歴史を聞いたことで、生徒それぞれが沼田まつりの価値を再認識し、沼田まつりのとらえ方が変わり、誇りに思える気持ちが高まる様子がとらえられた。
- 限られた時間の中で、講師の方との打ち合わせを効果的におこなうために指導案をもとにした授業のシナリオを作成したことはよかった。


とてきれいな、と 思いました。京都の職人さんに、沼田  
の祭りのためだけにつくられた箸というのを、かした「ひんがせ  
てらったとき、おもしろくほど音が響くきれいでした。  
おほ、おほ、おほ、と、おほ、おほ、おほ、と、おほ、おほ、おほ、と、  
本当にありがとうございます。

生徒の手紙1

今回の話を聞き、沼田祭りにまたおはしなどで参加  
してみたいと思います。小池さんが残してくれた  
ものを自分たちが伝えていきたいです。そして、  
この沼田祭りをもっと盛り上げていきたいと思  
います。ありがとうございました。

生徒の手紙2

また、授業の後笛についてたくさん教えていただき、それも  
おもしろかったです。京都に沼田のためだけに作ってくれる  
人がいて、竹から作るという話を聞いて、あの京都に!  
と思いました。どのお話も興味深く、おもしろく  
そして勉強になりました。来年からはもっと山車  
やお囃子に注目しながら  
楽しみたいと思いました。



生徒の手紙 3

私はこれから、祭りでも楽しんでだけでなく、昔から変わっていない所や  
大きく変わったところなどに注目しながら、今日学んだことを活かして楽しめ  
たいと思います。これからも伝統ある祭りを守るために頑張って  
下さい。私もそれに合わせて頑張れるようにしたいです。  
今回は本当にありがとうございました。

生徒の手紙 4

- 生徒の手紙 1 京都の職人さんに沼田まつりのためだけにつくられた笛を吹かせていただきました。もの  
すごく吹きやすかったです。私は、お囃子をずっと続けていきたいです。
- 生徒の手紙 2 今回の話を聞いてまた、沼田まつりにお囃子で参加したいと思いました。小池さんが残し  
てくれたものを自分達が伝えていきたいです。
- 生徒の手紙 3 京都に沼田のためだけに笛を作ってくれる人がいて、竹から作るという話を聞いて、あの京都に!  
と思いました。来年からはもっと山車やお囃子に注目しながら楽しみたいと思いました。
- 生徒の手紙 4 私はこれからただ楽しむだけではなく、昔から変わっていないところや、変わったところ  
に注目しながらまつりを楽しみたいと思いました。私も少しでも貢献出来るようになりたいです。

## ②発達段階に応じた指導の工夫

### 「気づく」過程

- 全ての生徒がいろいろな形で参加したことのある「沼田まつり」について、授業の初めに歴史的な背景  
などを話していただいたことで、新しい発見があり興味・関心が高まった中で学習が始められた。

### 「関わる」過程

- 結論とテーマを結びつけるために矢印を使ったことは思いの変化をとらえさせる上で効果的であった。
- 小池さんの中学校時代の話をうかがった後に現在の思いを聞くという場面を設定したことで、「沼田ま  
つり」をより身近にとらえることができた。
- 小池さんに実際にお囃子の笛を吹いていただいたことで、郷土への思いが深まりより守っていきたく  
という意識が強まった様子がうかがえた。

### 「伝える」過程

- 後日講師の小池さんにお礼の手紙を書いて思いを伝えた。「沼田まつり」についてとらえ方が変わった様  
子がうかがえた。

## 課題

- 何について、「気づく」「関わる」「伝える」学習場面を作っていくかきちんと整理して授業を構成する  
ことが大切である。
- 道徳の一単位時間の中で、「気づく」「関わる」「伝える」学習過程をたどることは難しかった。  
今回は「気づき(く)」「関わる」ことができても、思いを整理して相手に「伝える」ことが難しかった。
- 授業終末で、生徒が感想をまとめる時間がなくなってしまった。沼田まつりを支えてこられた小池さん  
の思いを知り、自分はどのようにまつり(郷土)と関わりたいかじっくり考えさせ、生徒同士で感想の  
交流ができれば、より道徳的価値が深まると考える。

## 実践事例2 (多那小学校6年1組 鷲頭教諭)

### 1 ねらい

「ふるさと祭り」にかかわるゲストティーチャー（以下：講師）の説話を通して、郷土の伝統と文化を育てた先人の努力や思いを知り、郷土を誇りに思い、伝統を守ろうとする心情を養う。

### 2 資料（教材） 主題名 「地域への貢献～ふるさと祭りを通して～」〈内容項目 4－（7）郷土愛〉 講師：吉野 豊さん（祭好連会長）

### 3 ねらいとする価値について

本題材は学習指導要領の内容項目4「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の（7）「郷土や我が国の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。」を中心価値としたものである。

郷土とは、自身の生まれ育った場所であり、友達との思い出や様々な人々とのかかわりを学ぶ場所であり、また慣れ親しんだ風景や自然、文化とのかかわりを通して自己の形成に大きな役割を果たすものである。自分を育んだ郷土への思いは、生涯に渡って大きな精神的な支えとなるとともに、自身の進路選択においても大きな要因となる。郷土の文化についての理解を深め、大切にしようとする心情を育むことは、児童にとって豊かな人生を歩む上で、重要な礎となると考えられる。将来、郷土に残っても離れても、自身の生まれ育った郷土を誇りに思い、大切にすることを目標に授業を構成した。

#### 本研究における実践の位置付け

道徳の時間において自分たちの住む地域の文化的価値のある教材を生かして、「気付く」「かかわる」「伝える」という学習過程（以下「3つの学習過程とする」）を通して、沼田のよさを再認識し沼田を誇れる児童の育成を図っていった。

本授業では、学校区多那の「地域への貢献～ふるさと祭りを通して～」を主題に、道徳の時間において、ふるさと沼田のよさを再認識し、沼田を誇れる児童・生徒を育てるために、3つの学習過程を工夫することの有効性を明らかにする。地域教材（地域の「ひと・もの・こと」）を効果的に活用し、3つの学習過程を工夫することで、ふるさと沼田のよさを再認識し、沼田を誇れる心情がより深まる児童・生徒を育てることができるであろうと考えた。

### 4 児童の実態

本学級の児童は、男子7名、女子3名、計10名の学級である。幼少期から多那学校区で育った児童がほとんどで、本人だけではなく親を含め、何世代も前から多那で生活している。就学前のみ隣の昭和村で生活していた女子が1名、4年生の4月に高崎市から転入してきた男子が1名いる。この2名についても、祖父母やいとこが多那に住んでいて、幼い頃からこの地域とのかかわりはもっている。

本研究にかかわり実施した事前アンケートの結果は、以下の通りである。（5月実施 10名）

質問1 あなたの住む地域について、調べたいと思うことはありますか。

はい（1）・いいえ（9）

調べたい内容・・・歴史をもっと知りたい

多くの児童は、自身が幼い頃から育ち、何世代も前から暮らしている地域に対して、愛着をもち、誇りを感じていると考えられる。消極的な回答をしたのは、いずれも別の地域から転入してきた児童で、他の児童に比べ、地域や学校について知っていることが少なく、地域への愛着が薄いと思われる。一方で、地域について調べることへの意欲は低く、その理由としては、長く同じ地域に暮らしていることで、地域については知り尽くしていると思っていること、地域の人とのかかわりも密接なため、聞きたいことはすぐに聞ける状況にあることなどが考えられる。調べたいと思った児童については、総合的な学習の時間における、多那の歴史についての学習によって意欲が高まったものと考えられる。

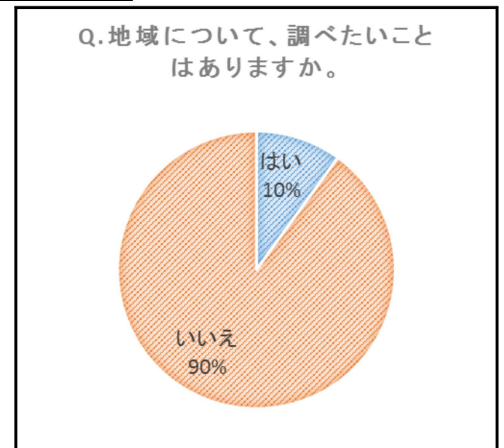


図1 事前アンケート（調べたいことがあるか）

**質問2** あなたの住む地域のよさを説明してください。(複数回答可)

自然や緑が豊かなところ (7)・空気がきれい (5)・畑がたくさんあるところ (1)  
木や林や森がたくさんあるところ (2)・田舎 (1)

すべての児童が自然に関する内容を回答していた。赤城山北面に位置し、市街地からも10km以上離れている非常に自然豊かなこの地域のよさを実感していることが分かる。一方で、文化・産業、歴史、先人などについての記述は見られなかった。自然には魅力を感じているが、他の分野についての知識が少ないものと考えられる。

**質問3** あなたの住む地域について、大切にしたいと思う場所やものを教えてください。(複数回答可)

朝霧の森 (5) →自然がたくさんあった方がきれいだから。学校で大切にしているから。みんなのものだから。多那にしかないと思うから。  
自然 (4) →自然があると気持ちいいから。自然しかないから。  
家・学校 (2) →一番お世話になったから。  
八木節 (1) →それしか特長がないと思うから。  
林や森 (1) →壊れてしまう前に、もっと人々に見てほしいから。

半数の児童が学校林である「朝霧の森」を挙げた。生活科や理科、総合的な学習の時間などを通して、低学年から活用する機会が多く、また他校にはないものだという認識から、大切にしたいと感じている児童が多いものと思われる。他に挙げたものも、自然にかかわる場所が多かった。自然以外の分野に関する知識や経験が少なく、文化的なものへの関心が低いことが予想される。また、「それしか特長がない」「自然しかない」といった回答が見られたことから、地域への否定的な感情が少なからずあることが分かる。自然以外の魅力に気付かせ、地域への愛着をもたせることに大きな価値があると考えた。

## 5 道徳的価値を深めるための工夫 (発達段階に応じた学習過程の工夫)

### 「気付く」過程

- お祭りの2つの側面 (①お客側にとっての楽しさ、にぎやかさ、ワクワク感などのプラス面、②運営側にとっての苦労や大変さ、悩みなどのマイナス面) を捉えさせ、それぞれの立場からお祭りの意義を考えられるように、それぞれの情報を色分け (①:青、②:赤) して提示した。
- 講師の子どもの頃から現在に至るまでの、お祭りに対する思いの変化に気付けるように、時系列を示す大きな矢印を黒板に提示した。

### 「かかわる」過程

- 地域を誇れる心、文化や伝統を大切にする態度などについて考えられるように、地域の発展に尽くしている方を講師として招き、話をしていただいた。
- 講師による説話を効果的に活用するために、事前にシナリオ風の学習指導案を作成し、教師のねらいや授業の流れ、講師の思いなどについて、入念な打ち合わせを行った。

### 「伝える」過程

- 思考の深まりや広まりを図るために、児童の意見発表の場を設定し、それぞれの意見を全体で共有した。
- 文化や伝統を継承していく態度を養うため、感想や学習のまとめ等を下学年の児童や学校外の人などに発表する場を設定した。

例：講師にお礼の手紙を書く (諸行事)

「ふるさと祭り」のよさを伝えるキャッチコピー・詩・川柳を考える (諸行事)

授業公開日や学習発表会などで劇やプレゼンテーションをする (総合・学校行事)

## 6 題材について

本時では、毎年お盆に多那地区で行われる「ふるさと祭り」を運営する祭好連の吉野豊さんを講師として招いた。講師は、祭好連の活動や八木節保存会の活動に積極的に参加し、多那の伝統を守り続けている。説話を通して、ふるさと祭りがただ楽しいだけのものではなく、先人の努力や思いをもとに多くの人の支えで成り立っていること、地域社会における重要な役割を担っていること、長年に渡る伝統は伝え続けるべきであることなどに気付かせるようにした。



本時に向けてシナリオ風の学習指導案を持参し、事前の打ち合わせの中で教師の思いや授業のねらいを伝え、講師の思いを聞きながら加筆修正を加え、当日用の資料とした。中心場面では、お祭りというものに秘められた価値について考えられるように、「地域貢献」や「伝統」などのキーワードを挙げながら、講師のお祭りに対する思いを語っていただいた。自然以外にも魅力（人々の思い、歴史、文化、伝統など）があることに気付かせ、郷土への愛着をさらに深めるとともに、地域社会に貢献しようとする態度を育てられるように配慮した。

#### ①講師について

吉野 豊(よしの ゆたか)さん

多那祭好連会長。現在31歳で多那校の卒業生。農業を営みながら、祭好連創立時からメンバーとなり、積極的に活動に参加し、多那の伝統を守り続けている。

#### ②本時における講師の話の内容

ふるさと祭りの歴史や運営面での苦労、ふるさと祭りや地域社会に対する思いなどを話していただいた。地域に住んでいる児童が、ふるさと祭りを支えてきた方々の存在を知り、郷土を誇りに思い、伝統を守っていこうという心情が生まれ育つことを期待して、授業を構成した。

## 7 本時の学習

### (1) 準備

ワークシート、アンケート結果のカード（青）、お祭りの情報を書いたカード（赤）

写真資料（ふるさと祭り、八木節練習、ごみ拾い活動、運動会、講師の顔写真）

時系列を示す大きな矢印

### (2) 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される児童の心の動き	時間	指導上の留意点
導入	1. 本時のねらいをつかむ。 「『ふるさと祭り』を通して、地域への貢献について考える」	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさと祭りについて学習するのか</li> <li>地域への貢献って何だろう</li> <li>どんなことを学ぶのかな</li> </ul>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさと祭りの写真を提示したり、事前アンケート結果のカード（青）を提示したりして、主題について学ぼうとする意欲を高める。</li> </ul>
展開	2. 講師と授業者との対話を聞き、お祭りや地域への思いについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>祭好連というものがあるのか</li> <li>お祭りにはたくさんの方が関わっているんだな</li> <li>お祭りの歴史はこんなに古いのか</li> <li>お祭りってけっこう大変だな</li> </ul>	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師について紹介し、授業者との対話形式でお祭りにかかわる情報を押さえていく。</li> <li>情報を書いたカード（赤）を整理しながら黒板に貼っていく。</li> <li>多くの苦労があることに気付かせるために、2つの立場のカードを比べさせる。</li> </ul>
	「こんなに大変なふるさと祭りを、吉野さんはどんな思いをもって、支えているのでしょうか。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>お祭りが好きだから</li> <li>自分と同じ楽しい思いを子どもたちにもさせたかったから</li> <li>多那のために何かしたいと思ったから</li> <li>地域への恩返し</li> <li>地域貢献のため</li> </ul>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの苦労があるにもかかわらず、毎年お祭りが行われることの意義について考えさせる。</li> <li>自分を講師の立場に置き換えて考えられるように、切り返し発問をし、数名に発表させる。</li> </ul>

	<p>3. 講師の話聞く。 (祭好連に入ったきっかけ、子どもの頃の吉野さんの様子、お祭りや地域への思い)</p> <p>4. 郷土や地域への貢献について、今までの自分を振り返る。 「今までに、地域貢献にかかわることをした経験はありますか。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域のためにこんなにがんばってるなんてすごい</li> <li>・ 自分も吉野さんのように地域のために何かしたい</li> <li>・ 吉野さんも子どもの頃はぼくたちと同じだったんだ</li> <li>・ 祭好連ってこんな風にできたのか</li> <li>・ ない</li> <li>・ ごみ拾い活動</li> <li>・ 八木節の練習</li> <li>・ 運動会</li> <li>・ 地域行事への参加</li> <li>・ 緑の少年団の活動</li> <li>・ 低学年とのかかわり</li> </ul>	<p>10分</p> <p>8分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシートにメモ欄を作り要点を記入させる。</li> <li>・ 地域貢献や伝統などのキーワードを挙げながら、話をしてもらう。</li> <li>・ 講師の子どもの頃から現在にかけての思いの変化に気づけるように、黒板に大きな矢印を貼る。</li> <li>・ 価値と自己とのかかわりについて考えられるように、キーワードを板書しておく。</li> <li>・ 自己有用感と実践への意欲を高められるように、児童が普段していることが地域貢献につながっていることに気付かせる。</li> <li>・ 共感的な理解を促すために、数名に発表させる。</li> </ul>
<p>終末</p>	<p>5. 講師の話聞き、本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域のために、できることからがんばりたい</li> <li>・ ふるさと祭りは伝統のあるものだったんだな</li> <li>・ 多那の伝統を守っていきたい</li> <li>・ 多那のために、できることはなんだろう</li> <li>・ 将来は祭好連に入ってみたい</li> </ul>	<p>7分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実践への意欲につなげるために、郷土を大切にすることや地域貢献についての思いを話していただくようにする。</li> <li>・ 数名の児童に発表させ、前向きな態度を賞賛する。</li> </ul>

8 板書計画

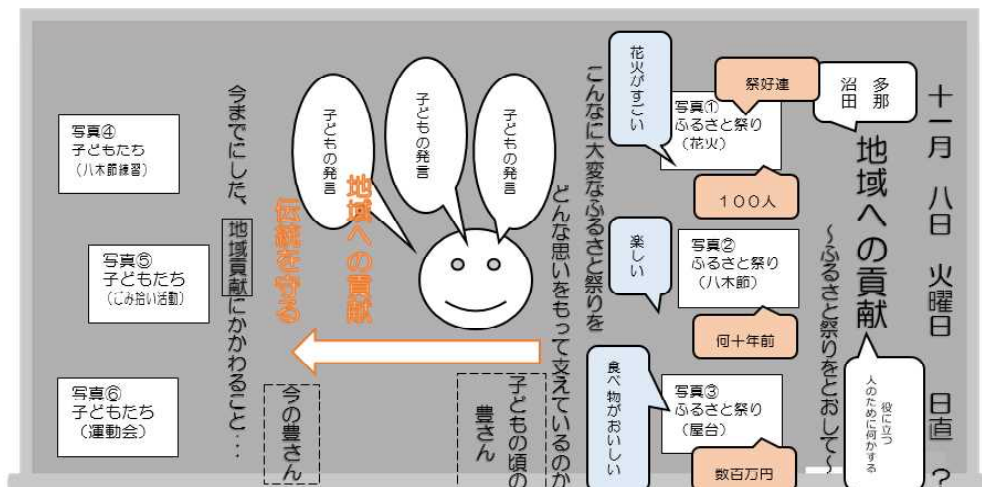


図2 板書計画

## 9 ワークシート

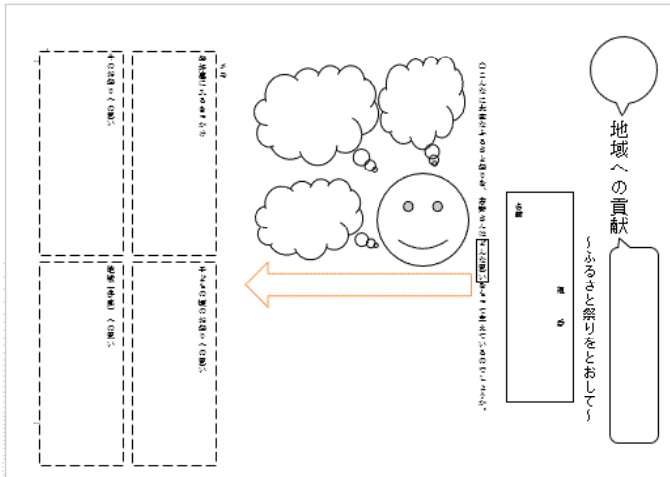


図3 ワークシート（表）

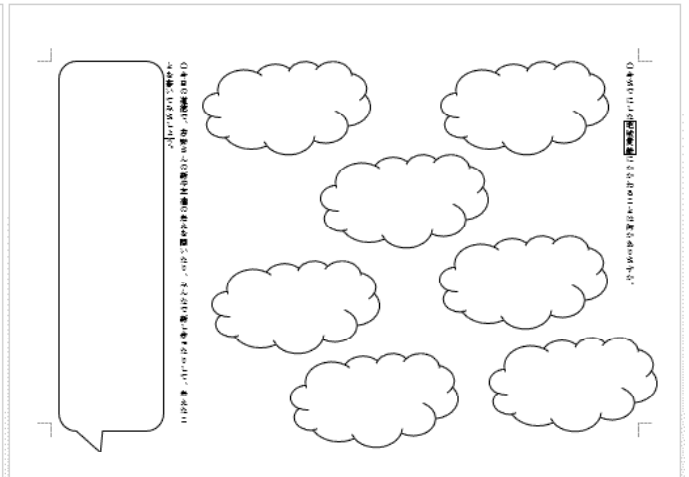


図4 ワークシート（裏）

## 10 実践のまとめ

(1) 授業の実際 (T: 教師, S: 児童, GT: 講師)

**導入** 授業の方向付け

T「全員立ちます。今から何枚かの写真を見せます。何にかかわる写真か分かった人は静かに座ります。」

全員、着席する。

T「全員分かったようですね。それでは、これは何の写真ですか。」

S「ふるさと祭り！」

T「そうです。今日は『ふるさと祭り』がテーマです。先日、みなさんにとって『ふるさと祭りについてどう思うか』のアンケートの結果を紹介します。」

(アンケート結果が書かれたカード(青)を提示していく)

- ①楽しいもの ②八木節や太鼓 ③多那の伝統 ④屋台  
⑤地域の人との交流会 ⑥地域特有の特別なもの ⑦一年に一度の楽しみ ⑧親戚が集まる 等

事前にとったアンケート結果を紹介し、「ふるさと祭り＝楽しい、にぎやか、ワクワクする」といったプラスのイメージを全体で共有した。全員でプラスのイメージを共有することで、後に出てくる「苦労や大変さ」といったマイナス面について触れるときに、より効果的になるようにした。

T「みなさんにとって『ふるさと祭り』は、とても楽しく、すてきなものだということが分かりました。今日は、その『ふるさと祭り』を通して、『地域への貢献』について考えていきます。」

T『『地域貢献』の意味はわかりますか？』

S「わかりません。」

T「では、地域はどうでしょう？みんなにとっての地域は？」

S「多那！」

T「そうですね。もう少し広い意味で言えば、沼田市も地域だと言えます。では、貢献は？」

S「誰かのために何かする！」

T「そうですね。『誰かの役に立つ、人のために何かする』という意味が近いと思います。」

本時の主題である「地域貢献」についての説明をし、しっかりと主題をつかませるようにした。そうすることで、その後の吉野さんの話も「地域貢献」を頭に入れながら、聞けるように配慮した。



図5 カードの提示

**展開①** ゲストティーチャー登場～お祭りについての話

T「それでは、今日は「ふるさと祭り」のことをよく知っている方に、ゲストティーチャーとして来ていただきました。それでは、入っていただきます。拍手！！（吉野さんに登場していただく）吉野豊さんです。知っている人もいるかな？この学校の卒業生でみんなの21年先輩です。農業をされている方で、八軒家という学校から赤城山の方にずっと上ったところに住んでいます。そして祭好連の会長さんをしている方です。」

（「祭好連」のカード（赤）を黒板に貼る）

T「吉野さん、祭好連とは、どのようなものですか？」

ゲストティーチャーによる授業への期待感を最大限に高められるように、講師の登場の仕方を工夫した。その後、授業者と講師との対話形式でお祭りについて話を聞いていった。



図6 授業者と講師との対話

GTの話の内容

①祭好連の概要

(1)活動内容…ふるさと祭りの運営補助（やぐら組みや屋台設営など会場準備全般）

…八木節保存会の手伝い

(2)人数 …25人ほど（メンバー）

(3)歴史 …今年11年目（6年生よりも先輩）で、豊さんが三代目会長。更にその前身に青年団があった。

②ふるさと祭りの概要

(1)歴史 …何十年も前から続く。豊さんのお母さんの頃からあった。当時は、やぐらの周りを杉の葉で囲っていた。

(2)運営にかかわる人数 …八木節保存会、祭好連、多那小中PTA、地区役員など、総勢100人以上。

(3)準備にかかわる期間 …7月中旬頃に準備会議を行う。当日は朝から準備し、翌日には片付けも行う。

(4)費用 …すべて合わせると数百万円。花火だけでも数十万円かかっている。

③お祭りを運営していく苦労や大変さ、悩み ※授業の一つ目の大きなポイント

(1)保存会の下で働く組織としての難しさ

(2)テーブル50台、いす200台を婦人の家の2階から運ぶなどの力仕事

(3)周りの人のための気遣い、雨を想定した準備（通路や雨宿り場所の確保など）

※自分のことではなく人のことを優先する

ここで、次の発問につなげるために楽しいお祭りの裏側には、色々な方の「苦労」や「大変さ」、「悩み」などがあることに気付かせるようにした。そのために、お祭りに参加する側（青）とお祭りを運営する側（赤）でカードを色分けし、二つの立場からみた「ふるさと祭り」について考えられるように工夫した。

**主発問** お祭りの意義を考える

T「みなさん、どうですか？お祭りとは楽しいだけのものですか？実は裏側には、こんな苦労が隠されていたのですね。さて、ここでみなさんに考えてもらいたいことがあります。こんなに大変な「ふるさと祭り」を、吉野さんは、どんな思いをもって支えているのでしょうか。」

（発問を黒板に貼る）

T「自分の考えをワークシートに書いてみましょう。」

（数名に発表させる）

S1「お金はかかるけど、楽しんでほしい。」

S2『「代表として』という気持ち。』

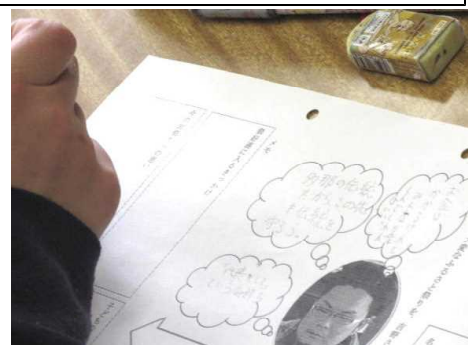


図7 児童のワークシート

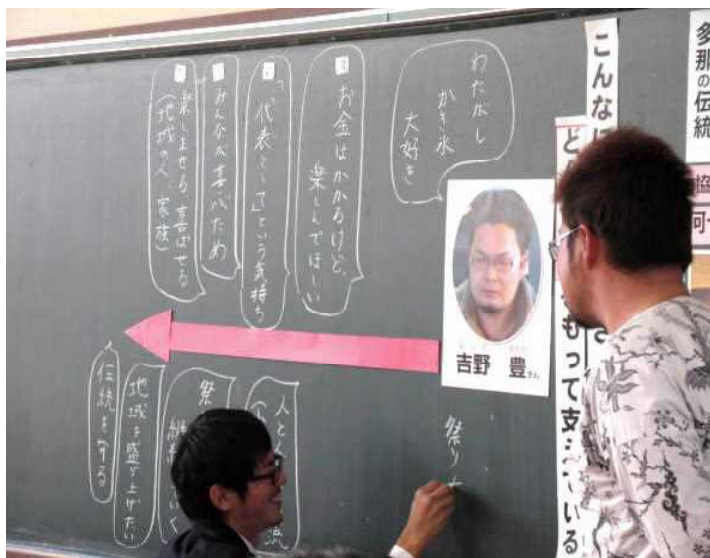
S3「みんなが喜ぶため。」

S4「楽しませる。地域の人や家族を喜ばせる。」

子どもにとっては楽しいもの、運営側にとっては大変なもの、その2つの側面をとらえた上で、お祭りをを行うことの意義について考えさせた。子どもの予想として、どんな意見も受容的な態度で取り上げるようにした。考えが浮かばない児童には、「自分が吉野さんの立場だったら、どう思うと思う？」と聞き、全員が何かしらの答えを書けるようにした。

## 展開② ゲストティーチャーのお祭りへの思い

T「それでは、実際にどんな思いをもって、お祭りを支えているのか、吉野さんのお話をきいてみましょう。よく話を聞いて、もし必要なことがあれば、ワークシートのメモ欄に書いておきましょう。一番大事なのは、よく聞くことです。メモに夢中になって、話を聞き逃さないようにしましょう。」



GTの話の内容

- ①祭好連に入るきっかけ
  - 11年前、20歳の時、祭好連が立ち上げられて初期メンバーとして入る。
  - 立ち上げられた背景には、青年団の解散があり、若い世代同士の交流が少ないことを心配する栗原政行さんの思いがあった。
- ②子どもの頃の吉野さんの様子（子どもの頃のお祭りへの思い）
  - 今の子どもたちと同じように、毎年お祭りを楽しみにしていた。
  - わたしがしや金魚すくいが好きだった。
- ③今のお祭りへの思い
  - 若い力が盛り上げてほしい。
  - せっかく立ち上げた祭好連という組織が長く続いてほしい。

図8 時系列を示す矢印

## ④地域（多那）への思い

- 若い人同士のつながりや団結力が高まってほしい。そうすれば、多那に戻ってくる人も増える。
- そのために、祭好連をうまく使っていきたい。

キーワード 「地域への貢献」 「伝統を守る」

話の中でキーワードとして「地域への貢献」や「伝統を守る」などの言葉を出していただき、ねらいにせまれるようにした。また、講師も子どもの頃はお祭りを楽しみにしていたこと、大人になるにつれて、それを守りたいという思いをもつようになったことに気付かせるために、黒板に大きな矢印を提示し、時系列に沿って吉野さんの思いの変化を考えられるようにした。

## 内省 今までの自分自身を振り返る

T「吉野さんは、こんな思いでお祭りを支えていたんですね。地域を思って、地域のためにこんなに色々して下さる人がいるんですね。」

T「さて、みなさんはどうですか。地域貢献にかかわることをした経験はありますか。今までの自分について振り返って、ワークシートに書いてみましょう。」

S1「ごみ拾い活動。」

S2「八木節の練習。」

S3「運動会で、がんばる姿を見せること。」



図9 児童の活動を写真で提示

お祭りや講師の話から離れ、児童一人一人に自分自身のこととして考えさせるために、地域貢献にかかわることについて、今までの経験を振り返らせた。思いつかない児童が多かったため、ごみ拾い活動や八木節練習、運動会などの写真を提示し、児童が普段行っていることが、地域貢献につながっていることに気付かせるようにした。

**終末** 授業のまとめ・振り返り

T「みなさんがやっていることも地域貢献につながっていたんですね。これからも、そういった場面がたくさん作れるといいですね。今日は、『ふるさと祭り』を通して、『地域への貢献』について考えました。それでは、最後に吉野さんに一言いただきます。」  
 GT「これからも、地域のために、自分ができることをがんばってほしい。そして、もし興味があれば、将来、祭好連などにかかわって地域を盛り上げて行ってほしい。」

子どもの発言を認めながら、授業のまとめをした。講師さんにも、子どもの発言を拾いながら、郷土を大切にすることや地域貢献について、一言いただいた。

T「ありがとうございました。それでは、今日の授業の感想を書きましょう。」

S1「地域にかかわることができていると分かった。」

S2「改めて多那の伝統のふるさと祭りを残していきたいと思った。」

S3「自分も（地域貢献を）やってみたい。」

S4「多那の伝統は素晴らしいものだった。」

最後に、それぞれに本時の振り返りを書かせた。数名に発表させたかったが、時間がなかったので、後日学級通信で振り返りを紹介し、全体で共有した。

(2) 児童の変容

5月に実施した事前アンケートと授業実践後の11月に実施した事後アンケートの比較結果は以下の通りである。

**質問1** あなたの住む地域について、調べたいと思うことはありますか。

「はい」と答えた児童が5名増えた。調べたいものには、「橋、地区の範囲、育てている野菜の種類、カスリーン台風、畑と家の数」などが挙げられた。「いいえ」と答えた児童の理由には、「学校で既に歴史を教わったから、そこまで興味がないから、既にたくさん知っているから」などが挙げられた。

今回の研究やその他の学習活動を通して、地域について調べ知識が増えたことで、多くの児童の関心が高まったものと思われる。

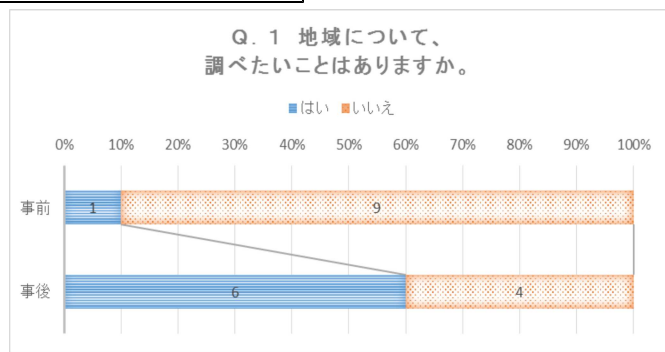


図10 事前・事後の比較 (調べたいことはあるか)

**質問2** あなたの住む地域のよさを説明してください。(複数回答可)

事前に比べ、「農産物、景色」などといった具体的な回答が増えた。また、その他として、「祭りがあること、肉以外の食材がすべて揃うこと、人が優しい」などの回答が挙げられた。

質問3と同様に、地域についての学習を通して、自分の住む地域のひと・もの・ことなどの財産の魅力を再発見することができたものと思われる。

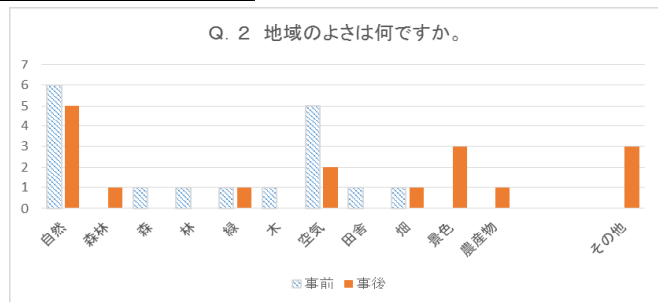


図11 事前・事後の比較 (地域のよさ)

質問3 あなたの住む地域について、大切にしたいと思う場所やものを教えてください。(複数回答可)

質問2と同様に、より具体的な回答が増えた。また、自然だけでなく、「ふるさと祭り、公民館」など文化的なものが回答に挙げられた。その他として「育成会の旅行、小中併設校」などの回答が挙げられた。また、回答の総数もわずかに増えた。

質問1、質問2と同様に、地域についての学習を通して地域の魅力について再発見したことで、「それらを大切にしたい」という気持ちが高まり、回答内容も多様化したものと思われる。

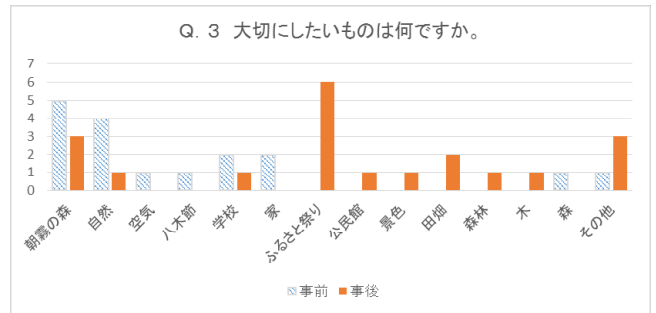


図12 事前・事後の比較 (大切にしたいもの)

ワークシートやお礼の手紙の記述より

授業の終末で書かせたワークシートの振り返りには、「改めて地域に関わることができていた、自分も地域貢献をやりたい、これからも色々な人の役に立ちたい」など地域貢献についての記述をした児童が4名、「ふるさと祭りでは陰でがんばっている人がいた、吉野さんの地域貢献についてわかった」などふるさと祭りの苦勞についての記述をした児童が2名、「多那の伝統は素晴らしいものと思った、八木節は約数十年も前からやっていて多那の伝統だと思った」といった地域の伝統の再発見についての記述をした児童が2名だった。授業を通してほとんどの児童が、伝統を大切に守り、地域に貢献しようとする心情をもったり、地域のよさに気付いたりすることができたものと思われる。

また、事後の「伝える」過程として、講師へのお礼の手紙を書かせた。その手紙には、「大人になったら地域に役立つ仕事がしたい、自分も吉野さんのようになりたい」など地域貢献について記述した児童が2名、「いろいろな苦勞をしている人がいる、大変さを改めて知ることができた」などふるさと祭りの苦勞についての記述をした児童が6名、「大変な仕事をやってもらい感謝している、とてもありがたい話を聞けてよかった」など感謝についての記述をした児童が4名、「八木節を大切にしていきたい」という伝統についての記述をした児童が1名だった。手紙の記述からも、地域貢献に対する意欲をもてたこと、地域行事や伝統について再発見できたことなどが分かった。また、事後に改めて学習内容を整理しながら、相手意識をもちながら手紙を書いたことは、価値の内省化を図る上で効果的であった。

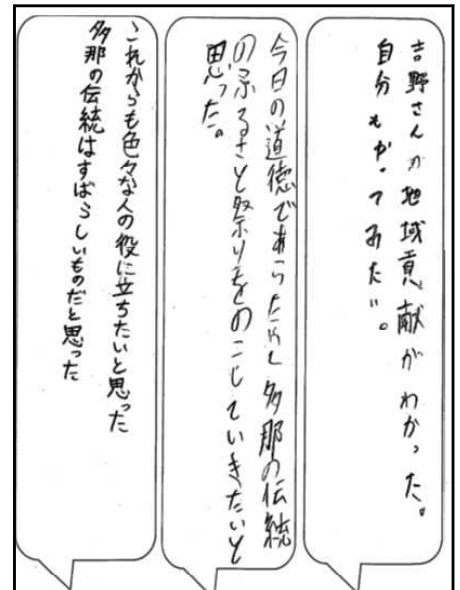


図13 児童の振り返り



図14 児童から講師への手紙

### (3) 成果と課題

#### 成果

本研究では「ふるさと沼田のよさに気付き、地域を誇れる心をもつ児童・生徒の育成」を目指し、「気付く・かかわる・伝える」という3つの学習過程を発達段階に応じて工夫してきた。その中で小学校高学年では「郷土に貢献した先人の努力や功績・文化財・地域行事の価値を理解し、地域社会に対する誇りと愛情をもち、社会に深くかかわろうとする児童」を目指す児童像として設定した。事前・事後アンケートやワークシート等の記述から、児童は地域社会に対する誇りと愛情をもち、社会に深くかかわろうとする姿勢が感じられた。本研究において、身近な地域教材を活用し、3つの学習過程を発達段階に応じて工夫しながら、地域行事について学習したことは、児童の関心を高めたり、地域のよさを発見・再認識させたりする上で、有効な手段であった。

#### ①地域教材の活用

- 児童の身近な存在である地域の方を講師として招き、生の声を聞いたことで、地域に貢献したいという思いを深めさせることができた。
- 地域行事を題材として扱ったことで、児童が今まで地域とどのようにかかわっていたのか、これからどうやってかかわっていくのかについて、実際の生活場面と関連づけながら考えることができた。

#### ②発達段階に応じた学習過程の工夫

##### 「気付く」過程

- 導入でアンケート結果を活用したことで、児童の現在での気持ちを整理でき、その後の気付きにつなげることができた。
- 導入で明確に価値の方向付けを行ったことで、ねらいがぶれずに授業が展開できた。
- カードを色分けし、お祭りにかかわる2つの立場からの情報を比べさせることで、裏にある苦勞に気付かせることができた。
- 大きな矢印を掲示し、時系列に沿って心情を板書することで、講師の子どもの頃から現在に至るまでの心情の変化に気付くことができた。
- 学習の流れが分かる板書計画を立てたことで、児童が振り返りのときに自分自身の学びについて再認識するきっかけとなった。
- 子どもの実際の活動の様子を写真で提示したことで、自分たちのしていることが地域貢献につながっていることに気付くことができた。

##### 「かかわる」過程

- 講師と授業者との対話形式での話を通して、お祭りにかかわる情報を集中して聞くことができた。
- 講師とシナリオ風指導案を元に打ち合わせをしたことで、展開がスムーズでねらいに沿った説話を聞くことができた。

##### 「伝える」過程

- 学習内容を振り返りながら、講師へのお礼の手紙を書かせたことで、学習内容の整理と価値の内省化を図ることができた。
- 学習内容を下学年に伝える活動を通して、伝統を守ろうとする心情を養うことができた。
- ふるさと祭りに関するキャッチコピーを考えさせたことで、地域の魅力を発信することへの関心を高めることができた。

#### 課題

- 教師と講師とのやりとりが多かったため、児童の意見を発表・交流させる場面を増やすべきだった。
- 児童に葛藤させたり、本音を引き出させたりするために、発問の工夫が必要だった。
- 道徳の一時間の授業の中で、3つの学習過程を網羅し、効果的に活用することは難しかった。特に「伝える」過程は、取り入れることが難しい。
- 講師をより効果的に活用するために、授業の展開や発問計画、学習形態などについて、更なる実践・検証が必要だと感じた。



### 実践事例3 (白沢小学校4年B組 飯塚教諭)

#### 1 単元名 「沼田市の発展に尽くした人々」

#### 2 本研究における単元の位置づけ

本単元の「沼田市の発展に尽くした人々」は、小学校学習指導要領解説社会編の目標(2)「地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。」、(3)「地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。」、内容の(5)「地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。」のイ、ウにあたる。

本単元においては、久米民之助について取り上げ、どのような思いで沼田公園を整備していったかを学習していく。久米民之助は、沼田公園を整備し、その地域の人のために無償で市に公園を譲った人である。児童は、日常的に沼田公園を訪れ、四季折々の公園の姿を目にすることがあるが、誰がどのように整備したかを知らない。本単元の学習で、久米民之助がどのような思いで公園を作り、どのように整備していったかを学習することを通して、地域の人のために尽くした先人の働きについて理解を深めていきたい。また、久米民之助の思いを受け継ぎ、沼田公園を守り、大切にしてきた地域の人々の思いも学習することを通して、沼田公園の価値を再認識し、沼田のよさに気付くことができると考える。さらに、沼田公園の学習のまとめでは、紙芝居を作り、民之助の生い立ちや功績を整理し、どのような思いで沼田公園を整備したかをまとめる活動を通して、調べたことや考えたことを伝えることができるようにする。伝える活動の前には、沼田公園に実際に見学に行き、学習したことのまとめをしたり、新たな気付きを発見したりできるようにする。このような学習をしていくことで、本研究の目標である「ふるさと沼田のよさに気付き、地域を誇れる心をもつ児童・生徒の育成」を目指すことができると考える。

#### 3 本研究に関する児童の実態 (男子15名、女子12名、計27名)

5月、本研究を進めるにあたり、アンケートをとったところ、次のような結果であった。

質問1 あなたの住む地域について調べたいと思うことはありますか。

はい 7人 いいえ 20人

調べたい内容

- ・沼田市の人口は何人か、何で白沢町には家が多いのか、古い建物や食べ物、店、沼田祭りのてんぐみこしはいつはじまったのか、沼田は何でできたのか、左馬之丞橋の川はどこまで続いているのか。

質問2 あなたの住む地域のよさを説明してください。(複数回答)

- ・やさしいひとがいる。6人・野菜やりんご、おいしいこんにゃくいもなどがたくさんとれる。5人
- ・自然がたくさんある。4人・さくらや松、植物がたくさんある。2人
- ・あいさつをすると返してくれる、あいさつをしてくれる人がある。2人
- ・水、空気、景色がきれい。3人・遊ぶところがたくさんあって楽しい、お祭りがある。1人

質問3 あなたの住む地域について、大切にしたいと思う場所やものを教えてください。(複数回答)

- ・家族、家 7人 →家族がいるから家を大切にしたい。家族がいないと生きていけない。
- ・ふるさとまつり、沼田まつり 5人 →楽しい。みこしをかつげる。友達と仲良くなれる。
- ・ぐんまの名産 3人 →生まれたところだから。
- ・白沢町、地域の人 2人 →優しい人があるから。
- ・平和公園 2人 →大好きな場所だから。みんな遊べて遊具もいろいろあるから。
- ・左馬之丞橋 1人 →昔からある橋だから。

以上の結果から、児童は身近な地域のことについて、公園やお祭り、地域の人々とのつながりを大切に、地域の自然や名産を誇りに思っている。しかし、調べたいことがなかったり、地域のよさを説明すると、抽象的な事柄をあげたりすることから、身近な地域についての理解が乏しい。そのため、地域の発展のために尽くした先人の働きを学習することを通して、地域のよさを再発見し、地域のひと・もの・ことを誇れる心をもつ児童を育てていきたい。

#### 4 本研究にかかわる学習過程の工夫

##### ○「気付く」過程

日常的指導において、ニュース係と社会係を新たに設け、朝の会でニュースと沼田のことや群馬県のことについて発表させる。テレビや新聞で扱っている事柄を伝えたり、沼田や群馬県の施設や文化財のことを伝えたりすることで、沼田のよさや身近なもののよさに気付くことができるようにする。また、日直のスピーチの話題に「沼田の好きなどころ」を取り入れ、児童の考える沼田の好きなどころを発表させることを通して、児童の間で沼田のよさに気付いたり、再発見したりできるようにしていく。

間接的指導では、沼田公園などの写真を見せ、そこから分かることを読み取らせ、2つの写真を比べて違いに気付かせたり、変化を読み取ったりできるようにする。写真を見せる際には、テレビ画面に映したり、360°のパノラマ写真を見せたりしていく。

##### ○「かかわる」過程

沼田公園や白沢の文化財を見学し、実物から読み取ったり、新しい発見をしたりすることができるようにする。また、見学の際には、文化財について詳しい地元の人に説明をしてもらい、沼田のよさを再認識することができるようにする。

##### ○「伝える」過程

沼田公園をつくった久米民之助についての紙芝居を作成し、3年生に読み聞かせを行う。紙芝居をする際には、民之助がどのような思いで公園をつくったのかを丁寧に描写させることで、先人の働きを理解できるようにする。

また、国語の単元「見学したことを報告しよう」で見学したことを新聞にまとめる活動をすることで、沼田公園がどのようにつくられたのか、今はどのような施設があるのかをまとめさせ、より理解を深めることができるようにする。

#### 5 単元の目標

沼田の発展に尽くした先人の働きに関心をもち、先人の働きや苦心によって地域の生活が向上してきたことを理解し、見学したり資料を活用したりして調べたことを作品にまとめるとともに、地域の人々の願いや生活の向上と先人の働きや苦心とを関連付けて考え適切に表現する。

#### 6 評価規準

##### 【社会的事象への関心・意欲・態度】

○沼田の発展に尽くした人々の働きに関心をもち、意欲的に調べている。

○先人の努力によって発展してきた沼田に対する誇りと愛情をもち、地域社会のよりよい発展を考えようとしている。

##### 【社会的な思考・判断・表現】

○沼田の発展に尽くした先人の働きについて学習問題や予想、学習計画を考え、適切に表現している。

○地域の人々の生活の向上には、人々の願いやそれを実現するための努力があったことと、先人の働きや努力があったことを関連付けて考え、適切に表現している。

##### 【観察・資料活用の技能】






○沼田公園の見学や地域の人からの聞き取り、年表その他の資料を活用して必要な情報を集め、適切に読み取っている。

○沼田の発展に尽くした先人の働きや苦心を紙芝居や新聞にまとめている。

##### 【社会的事象についての知識・理解】

- 沼田公園を作った久米民之助などの地域の発展に尽くした先人の働きを理解している。
- 地域の人々の生活の向上は、人々の願いや努力、先人の働きや苦心によるものであることを理解している。

### 7 単元計画（全10時間：本時はその1時間目）


過程	時間	主な学習活動	支援及び留意点	実践の様子
気付く	1 (本時)	○沼田公園について知っていることを発表する。 ○沼田公園はだれがいつつくったものなのか考える。	○沼田公園について知っていることを発表させたり、広さを体感できるように写真や動画で示したりすることにより、沼田公園は多くの施設が広い土地にあることに気付かせ、それを作った先人の働きに関心をもたせる。 ○沼田公園をつくった久米民之助の胸像を見せ、どのようなことをしたのか考えさせ、働きに関心をもたせる。	 資料から読み取る
かかわる	2	○どんなことを何を使って調べていきたいかを考え、学習課題を立てる。 ○学習計画を立てる。 ○学習の見通しをもつ。	○どんなことをどのような資料を使って調べていきたいかを考えさせ、学習課題を立てさせる。 ○課題を集約し、単元を貫く課題を立て、学習計画を立てさせる。 ○単元の最後には学習したことをグループで紙芝居にまとめ、下級生に読み聞かせをすることを確認し、意欲的に課題を追究できるようにさせる。紙芝居にする際にはグループの中で一人一枚は紙芝居をかけるようにする。	 課題を集約する
	3	○沼田公園をつくった久米民之助について調べる。	○学習の流れに沿ったワークシートを準備し、紙芝居にする際にまとめやすいようにする。 ○久米民之助の子どものころの様子を読み取らせ、まとめることができるようにする。	 調べてまとめる
	4	○沼田公園をつくった久米民之助について調べる。	○久米民之助が学業に励み、事業を成功させるまでの様子を読み取らせ、まとめさせる。	 調べてまとめる
	5	○久米民之助がどうして公園を作ろうと思ったのかを調べ、久米民之助の公園に対する思いを読み取る。	○久米民之助が思いをもって公園作りを決意したことを読み取らせる。 ○「まんが沼田の歴史」の久米民之助のふきだしを空白にした部分を考えて書かせることで、久米民之助の思いに気付くことができるようにさせる。	 吹き出しを考える

	6	○久米民之助はどのようにして公園を作ったのか調べる。	○資料を使ってどのようにして公園が作られていったのかを調べさせる。 ○久米民之助が、一本の木、一つの石にいたるまで指示をしたところから、思いを込めて公園をつくったことを読み取らせる。	
	7	○沼田公園の久米民之助の胸像、寿楽園の碑を見学し、久米民之助について話を聞く。	○実際の公園の広さを体感させ、公園整備の大変さに気付かせる。 ○花壇や施設の状態から、現在も人の手によって整備されたり、管理されたりしていることに気付かせ、久米民之助の思いが受け継がれていることを理解させる。	
伝える	8 〜 10	○久米民之助の功績を紙芝居にしてまとめる。 ○下級生の子に紙芝居を読み聞かせする。 (朝学習)	○久米民之助がどのような思いで沼田公園を作ったのか、ワークシートを使いながら紙芝居にまとめさせる。 ○紙芝居にする際には、グループで一人一枚を担当し、絵と言葉を考えられるようにする。 ○朝学習の時間に下級生に読み聞かせをすることができるように、言葉を簡単にしたり、わかりやすくまとめたりできるようにさせる。	

## 8 本時の学習

- (1) ねらい 沼田公園がどうしてできたのかを考えさせることを通して、沼田公園をつくった先人の働きに関心をもつことができる。
- (2) 準備 教科書、沼田公園の整備前の写真・現在の公園の写真、パソコン、久米民之助の胸像の写真
- (3) 展開

過程	学習活動	時間	支援及び指導上の留意点
つかむ	○沼田公園ができる前の公園の写真と現在の公園の写真を見て、どこの写真であるかを予想する。 ○本時のめあてをつかむ。	5分	○沼田公園が整備される前の写真を見せ、御殿桜などに注目させ、どこの場所かを予想させる。 ○現在の沼田公園の写真を見せ、二つとも沼田公園の場所の写真を確認させ、本時のめあてをつかませる。
	○どうして沼田公園ができたのか考えよう。		
解決する	○沼田公園の整備前の写真を見て、分かることを発表する。 ○沼田公園整備後の写真を見せ、現在の沼田公園はどのような場所であるかを発表する。	10分	○沼田公園の整備前の写真を見せ、どのような場所であるか、時代はいつ頃であるかを読み取らせる。 ○沼田公園について児童の知っていることを挙げさせ、御殿桜や鐘楼、花壇や野球場など広大な土地に様々な施設があることに気付かせる。 ○沼田公園を訪れたことがあるかを尋ね、沼田公園ではさくらまつりが行われていたり、城跡を見にくる観光客の人が多く訪れたりしていることを確認させる。
	○沼田公園は誰が作ったのか考える。	20分	○沼田公園は どうしてできたのかを投げかけ、だれかが作ったことに気付かせる。

	<p>○胸像の写真を見て、分かることを発表する。</p> <p>○寿楽園の碑の写真を見て、沼田公園を作った人のヒントを探す。</p>		<p>○ストリートビューで久米民之助の胸像を見せ、公園と胸像に関係があることに気付かせる。</p> <p>○久米民之助の胸像の写真を見せ、胸像の下にある「忍耐」の文字や測定の道具を読み取らせ、建築関係の人であることに気付かせる。</p> <p>○寿楽園の碑の写真から、「久米先生」、「沼田公園」、「造営」の言葉を見つけさせ、久米民之助という人や胸像の人が沼田公園ができたことと関係があることに気付かせる。</p>
<p>ま と め る</p>	<p>○本時の学習を振り返り、考えたことを発表する。</p>  <p>○次時への見通しをもつ。</p>	<p>10 分</p>	<p>○本時の学習を振り返らせ、わかったこと、わからなかったこと、もっと知りたいことを書かせ、発表させる。</p> <p>○本時の学習を振り返り、これからどのようなことを考えていきたいかを投げかけ、次時では単元を貫く学習課題と学習計画を立てることを確認させる。</p>

(4) 本時のまとめ

<成果>

- 児童が映像資料や画像資料から意欲的に読み取ろうとする姿が見られ、沼田公園をつくった先人に対する関心が高まった。
- 資料からでは分からないことを整理させたことで、今後の学習の見通しをもたせることができた。

<課題>

- 資料で公園と先人の両方を扱ったことで、先人の働きと沼田公園の二つのことに関心が向いてしまった。

9 単元を通した学習経過

(1) 「気付く」過程

- 学習課題を立てる。

児童は公園、作った人物についての調べたいことを挙げた。その後、それぞれの調べたいことを分類した。その結果「どうして沼田公園は作られたのか。」「どうして今の所に公園が作られたのか。」「久米民之助はどういう人なのか。」「公園はどのように作られたのか。」などの疑問が挙げられた。その後、それを基に単元を貫く課題を立てた。



学習課題を立てる

(2) 「かかわる」過程

- 沼田公園に設置されている久米民之助胸像、久米先生遺徳顕彰碑、寿楽園の碑を見学し、地域の沼田公園ガイドの方に話をいただく。

(見学後の学習を振り返ったお礼の手紙の記述)

「沼田公園をつくった久米民之助のことが教科書よりもたくさん知ることができました。また、案内をしてくれてありがとうございました。もっと話が聞きたかったです。」「話の中で一番勉強になったのが、沼田公園の久米民之助の話です。沼田公園の最初の名前が寿楽園と知って、とてもおどろきました。」このことにより、見学したことで学習したことが深まったり新しい発見があったりしたことが分かった。



寿楽園の碑の見学



単元を貫く課題を立てる



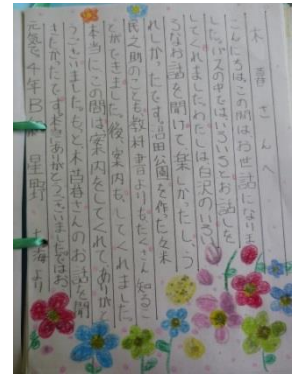
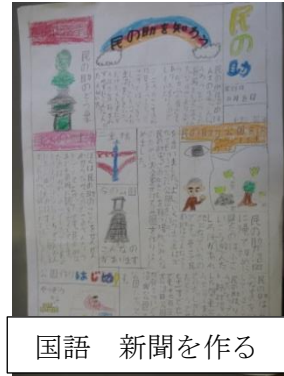
課題を集約する



課題を書く

(3) 「伝える」過程  
(新聞の感想)

「久米民之助はがんばる気持ちで困難にたえぬいたのはすごいと思いました。久米民之助は強い人だなあとと思いました。」「私は、沼田公園をつくったのはだれなのか考えていたので、知れてよかったです。これから、沼田公園をもっと大切にしていきたいです。」「沼田公園をつくった久米民之助は、荒れ果てた城跡を公園に作り替えたのがすごいと思いました。」このことにより、先人の功績を知り、沼田公園のよさを再認識している様子がうかがえた。



10 実践のまとめ

(1) 児童の変容

5月に実施した事前アンケートと授業実践後、11月に実施したアンケートの結果は、次のとおりである。

① 「質問1 地域について調べたいことはありますか。」の分析

図1より、事前アンケートでは、「沼田市の人口」や「白沢町のこと」「沼田まつり」についてなど身近な場所について調べたいと思う児童が多く見られた。

一方事後のアンケートの結果、身近な白沢町のことで、「白沢町の歴史」「白沢の自然」「白沢のりんごの生産」について調べたいと思う児童が増えた。沼田市のことで、「沼田市の歴史」「沼田公園の変化」「沼田の名産」など、調べたいことがより明確になった。また、「群馬県の歴史」「群馬県の人口」など、調べたいことの地域の広がりが見られた。

以上のことから、学習を通して、児童は地域についての理解を深め、さらに調べたいことが増えたと考えられる。調べたい内容についても、白沢や沼田のことだけでなく、群馬県について調べたいことが挙げられるなど、見方が広がり、地域のよさに気付けたことが分かる。



質問1 地域について調べたいことはありますか。

事前アンケート	事後アンケート
沼田市の人口は何人か。	白沢町の歴史 (5人)
何で白沢町には家が多いのか。	群馬県の人口 (2人)
古い建物や食べ物や店	平和公園の由来 (2人)
沼田祭りでのてんぐみこし	群馬県の歴史 (2人)
沼田はどうしてできたのか。	群馬県の小学生の数
左馬之丞橋の川	群馬県の形
調べたいことはない。(20人)	沼田の歴史
	沼田公園の変化
	沼田の由来
	沼田の名産
	白沢の自然について
	白沢のりんご生産
	川や山の名前
	有名な場所やもの
	古くから伝わるもの
	左馬之丞橋は誰が作ったのか
	地域の人たちの取り組み
	民之助の知名度
	民之助のように地域のために尽くした人
	ぐんまちゃん
	調べたいことはない。(2人)

図1 「調べたいことがあるか」事前、事後アンケート結果

② 「質問2 あなたの住む地域のよさを教えてください。」の分析

図2より、事前アンケートでは、「野菜やりんごがある」「地域の人が優しい」ことがよさと挙げられた。

一方、事後アンケートの結果では、「おいしいものがある」「生産している」「生産量日本一のこんにゃく」など、地域のよさに広がりが見られた。また、「地域の人が優しい」「挨拶をすると返してくれる」「困っていると助けてくれる」など自分と地域の人とのかかわりの中で、よさに気付いた児童も多く見られた。以上の結果から、新しい地域のよさに気付いたり、よいと感じるものに広がりが見られたりした。

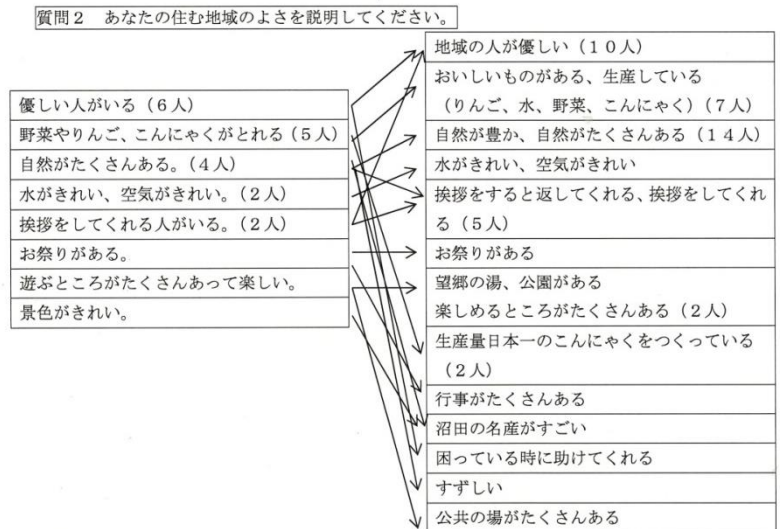


図2 「地域のよさを説明」事前、事後アンケート結果

③ 「質問3 あなたの住む地域について、大切にしたいと思う場所やものを教えてください。」の分析

事前アンケートでは、「家族」「おまつり」「白沢町」「公園」などが挙げられたが、その一例として図3の「平和公園、沼田公園」を取り上げた。「平和公園、沼田公園」を大切に思う理由は、事前アンケートでは「大好きな場所だから」「遊具があるから」「みんなで遊べるから」などがあつた。

一方、事後のアンケートの理由では、「公共の場所だから」「みんなで大切に使いたいから」「大切なものだから」「ぼくたちのために守ってくれたものだから」などが挙げられた。そのことから、自分との関わりだけでなく、地域とのかかわりから、大切にしたいと考える児童が増え、考えが深まったことが分かる。

「大切にしたいと思うもの」で挙げられた内容も、事前アンケートでは、抽象的であったが、事後アンケートでは、「沼田公園」「平和公園」「神社、寺」「農民広場」「自然」「望郷の湯」「学校」「集会所」「おまつり」「まつりのまんど、みこし」「地域の人」「沼田名誉市民」などが挙げられ、より具体的になり、地域の「ひと・もの・こと」を幅広く大切にしたいということが分かった。学習を通して、地域の素晴らしい「ひと・もの・こと」に触れる中で、大切にしたいと思う心が育ったのだと考えられる。

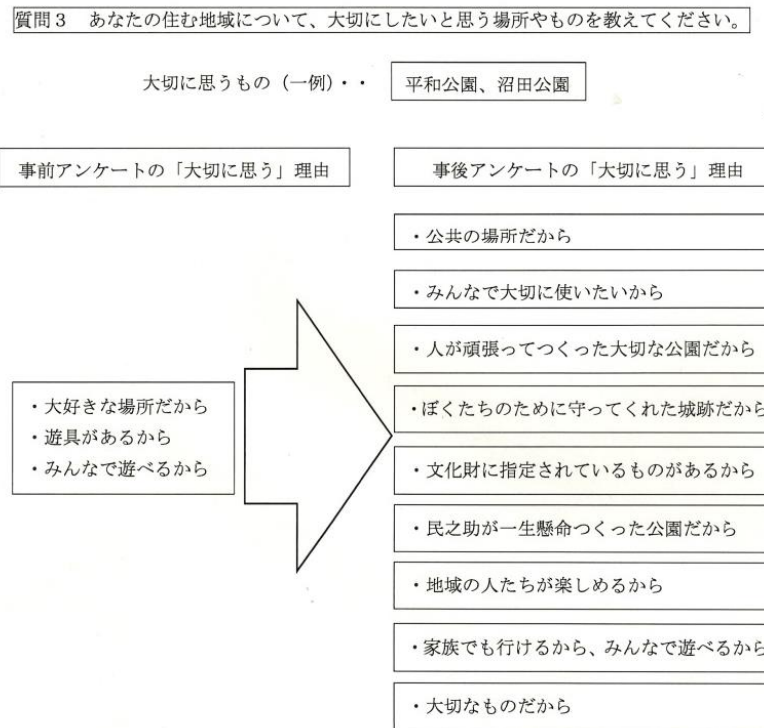


図3 「大切にしたいと思う場所」事前、事後アンケート結果

## (2) 成果

本研究を通して児童が、自分が住んでいる地域や沼田に対しての関心を高め、調べたいと思う気持ちが高まったり、実際に調べたりすることができた。また、地域のよさを説明することができるようになり、地域のよさを知り伝えることができるようになった。学習することや地域に存在する「ひと・もの・こと」に関心をもつことで、今まで知っていた「ひと・もの・こと」の価値を再認識したり再構築したりして、大切にしたいという思いが高まったと考えられる。さらに、沼田を誇りに思う児童が増えたと考えられる。

学習過程ごとの成果は次のとおりである。

### ①地域教材の活用

- ・すべての児童が行ったことのある「沼田公園」を教材として扱うことで、同じ土台の上で先人の働きを知ることで、沼田のよさを再認識することができた。
- ・沼田公園を実際に見学に行く際には、公園のことや久米民之助についてよく知る地域のガイドの方に話をしてもらうことで、調べるだけでは分からなかった地域の人の思いや、これからの公園について考えるきっかけをつくることができた。

### ②発達段階に応じた指導の工夫

#### ○「気付く」過程

- ・ICTを活用し、教室で沼田公園の様子を全方向から見せたことで、意欲的に児童が資料を読み取ろうとする様子が見られた。
- ・久米民之助の胸像など、着目させたい場所の写真を現地へ実際に撮りにいき、全方向の写真で見せながら、意図的に資料提示をしたことにより、児童が興味をもちながら公園に胸像があることに気付き、その後の学習につなげることができた。
- ・日常的指導として、社会係が朝の会で、沼田や群馬県にかかわる話題を発表する活動をしたことは、身近なお寺のことや温泉のこと、地域の行事のことを新しく知ったり、知っていたことの理解を深めたりするきっかけとなり大変有効であった。
- ・日常的指導として、日直の朝の会のスピーチの話題の一つに「沼田の好きなところ」を取り入れたところ、平和公園、地域の人についてスピーチする児童もおり、うなずきながら聞く児童の様子が見られ、好きなところを共感することができていた。

#### ○「かかわる」過程

- ・学習の中で登場した「久米民之助胸像」や「遺徳顕彰碑」の実物を見て、地域のガイドの方に話を聞いたことで、久米民之助のおかげで沼田公園があることを実感することができ、久米民之助の功績を再認識することができていた。
- ・地域のガイドの方に話を聞くことで、地域と児童とのつながりを近く感じることができ、先人の思いを身近に感じることをできていた。
- ・久米民之助が本来作りたかったものがなく、現在遊具や野球場などがなぜ作られているのかを調べたり考えさせたりすることで、沼田公園は未だ完成しているわけではなく、後世の私たちが思いを受け継いで大切に守っていかなければいけないことに気付き、考えを深めることができた。

#### ○「伝える」過程

- ・紙芝居では、絵や文の中にいれたい事柄を調べる過程において書くことができていたので、会話や説明を入れながら、思いの溢れる紙芝居を作ることができた。
- ・国語の学習を生かして新聞を作ったことで、久米民之助が沼田公園を作った理由が簡潔にまとめることができていた。新聞の中には、驚きや新しい発見、児童の思いが感想として書かれており、それぞれが先人の働きに気付いて、作品を作ることができた。
- ・完成した紙芝居は、朝学習の時間に3年生に読み聞かせを行った。3年生にとっても沼田公園は身近なところであり、熱心に聴く様子が見られた。発表する児童も、学習したことをよりよく伝えようと読む様子が見られた。



### (3) 課題

本研究における課題としては、児童が実際に沼田を誇りに思っているかを判断することが難しいと感じた。調べたいと思ったり、説明できたりすることは、よさを知っていて、伝えることができるということであるが、その気持ちを継続してもち続けることが、誇りに思うことだと思うので、継続して地域の学習を取り入れていく必要があると思う。

学習過程ごとの課題は次のとおりである。

#### ○「気付く」過程

- ・児童が意欲的に資料を読み取ることはできていたが、学習課題を立てる次時の様子を見てみると、沼田公園についての関心と沼田公園を作った人への関心の二つに分かれてしまった。「だれが」沼田公園を作ったのか、「どうして」沼田公園を作ったのか、作った人の思いに関心をもたせることができるように、過去と現在の比較を細分化したり、沼田公園が作られた様子を見せたりしながら、考えを深めさせる必要があった。
- ・スピーチや係活動では、主体的に調べて発表する児童が少なく、ほとんどの児童が受け身の活動になってしまった。全員が話す機会を意図的に計画することで、伝えたり、聞いたり、質問したりして児童の主体的な活動を展開できるように働きかけるべきだった。

#### ○「かかわる」過程

- ・見学したそれぞれの場所で、久米民之助がどのような思いで公園をつくっていったのかの話をしてもらったが、久米民之助の公園づくりの構想と現在の公園の様子にずれがあることを説明することができなかった。

#### ○「伝える」過程

- ・紙芝居では、一人一枚の作成になったので、久米民之助が公園をつくった時の思いを全員が伝えることができなかった。ワークシートにおいて全員まとめてはいたが、一人一人が学習の中で久米民之助の思いを考えることができたので、それを伝えたり、交流したりする場をつくることができると、先人の思いへの理解が深まったと考える。

## VI 研究のまとめ

### (1) 成果

授業で取り上げたことがきっかけとなり、児童・生徒にとっては、今までに知っていたことを改めて再認識するよい機会となっていた。授業後のアンケートや、授業を振り返りまとめたノート、お礼の手紙などの記述から、沼田のよさを知り、沼田への愛着が深まり、今まで以上に誇りに感じられている姿が見られた。

地域を誇れる心をもつ児童・生徒の育成を図るために、「気付く」「かかわる」「伝える」の学習過程の手立てをとり、地域教材をいかすことは、児童・生徒にとって身近で大変興味深く、意欲をもって学習に取り組ますことに有効であった。すでに多くを知っていると感じている児童・生徒には、違う視点を与えたり、背景を捉えさせられるような工夫をしたりして沼田のよさを再認識させることで、スパイラル的にそこからまた先の学習が始まるということが分かった。

「気付く」「かかわる」「伝える」の学習過程ごとの成果は、以下のとおりである。

#### ○「気付く」過程

- ・地域の人々の思いに気付く手立てとして、写真資料からわかることを確認した後に、なぜそのような状態にあるのかという問いをたてたことは、先人の功績や、努力に気付かせるために有効であった。
- ・時間のつながりを示す矢印を示すことで、時間的なつながりを意識し、思いや環境の変化に気付くことができた。
- ・人の思いや日常生活とのかかわりなどの視点を与えたことで、児童・生徒の思考を焦点化することができた。

#### ○「かかわる」過程

- ・講師による説話や見学・調査活動などの体験的活動を取り入れたことで、児童・生徒が自分の参加したときの経験を思い出したり、文化財に進んでふれようとする姿が見られたりして、関心意欲を高めることができた。
- ・クラスメイトや講師など、他者とのかかわりをとおして、児童・生徒の思考を深めることができた。

#### ○「伝える」過程

- ・伝える過程を設定したことで、児童・生徒は見通しをもった学習を行え、また相手意識をもちながら学習をまとめることができた。また、指導者は、伝える過程に向けて計画的な指導を意識することができた。
- ・伝える過程でまとめる活動をしたことで、学習内容を振り返らせ、自覚させることができた。

### (2) 課題

「道徳」と「社会科」という教科の違いや、小学校と中学校という校種、発達段階の違いがある中で、共通項を見出しながら研究を進めることが難しいと感じた。「気付く」「かかわる」「伝える」の学習過程ごとの課題は、以下のとおりである。

#### ○「気付く」過程

- ・資料や説話から何を気付かせるのかを精選し、そのために効果的な発問を考える必要がある。

#### ○「かかわる」過程

- ・体験的な活動は効果的であったが、受け身になる場面が多かったので、児童・生徒が主体的にかかわれる場面を意図的・計画的に設定することが重要だと感じた。

#### ○「伝える」過程

- ・伝える手段が書くことに終始してしまい、一方的なものになってしまったので、児童・生徒同士が言葉で伝え合ったり、講師と思いをやりとりしたりするなど、双方向の活動ができるとよかった。

〈参考文献〉

- 『きりえ沼田かるた』 著者 沼田かるた製作委員会  
出版社 沼田市教育委員会
- 『まんが 沼田の歴史』 下 近世・近代・現代編 1991年3月25日発行  
監修 武井新平 高橋 安治  
漫画 ひおあきら
- 『わたしたちの白沢村』 平成11年3月1日 改訂第2版発行  
編集 白沢村立白沢小学校  
発行 白沢村教育委員会
- 『わたしたちの沼田市』 平成15年3月31日 新訂版発行（第9回改訂）  
編集者 沼田市小学校社会科副読本編集委員会  
発行者 沼田市教育委員会
- 『わたしたちの沼田市』 平成27年3月31日 第12回改訂
- 『沼田市 教育研究所 研究紀要 平成25年版』  
『 同 研究紀要 平成26年版』  
『 同 研究紀要 平成27年版』
- 『平成25年度 人づくり事例集 群馬県』  
『小学校学習指導要領解説・道徳編』  
『中学校学習指導要領解説・道徳編』  
『小学校学習指導要領解説・社会編』  
『中学校学習指導要領解説・社会編』  
『小学校学習指導要領解説・生活編』  
『はばたく群馬の指導プラン（実践の手引き）平成26年3月』  
『はばたく群馬の指導プラン 平成24年3月』  
『改訂新版 実践的研究のすすめ方 編集者 群馬県教育研究所連盟 2014年1月18日』  
発行者 錦織 圭之介